

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	30	御幸公園梅香事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			633200		道路公園センター 整備課			伊藤	72560

事業の概要										
事業の概要		かつて幸区に梅林の名所があった歴史を活かし、市制100周年に向け、梅の植樹による梅林の復活による区の魅力向上とともに、梅まつりの開催、歴史文化の伝承などを市民との協働で推進します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域資源活用事業			
		平成27年度		令和7年度						
地域の課題と現状		御幸公園のある小向一帯は、明治時代に梅の名所として有名になり、明治天皇が行幸された歴史があります。こうした区の地域資源を活かしながら様々な主体と協働・連携により魅力を高め、また、さらなる地域住民の参加を促すため、区民との協働による取組をより活性化する必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	8,964	8,248							
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財	1,400	1,400						
	一般財源	7,564	6,848							

計画 (Plan)	
事業の目的	梅林を市民と復活させるとともに、御幸公園が憩いの場、集いの場となり地域コミュニティの活性化につながることを目指します。
今年度の事業の取組内容	御幸公園梅香事業推進会議を開催し、進捗状況の確認及び課題の抽出・検討を行うとともに、梅林の復活を目指した梅の植樹、地域への愛着を深めるための写真展や川柳コンクール、地域との協働による観梅会を開催します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に 対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		御幸公園梅香事業推進会議の開催3回（書面開催、11/18、2/27）。写真展の開催3回（区役所、日吉出張所）。河川財団の助成金や寄附・募金を活用した梅の植樹（10本）。観梅会は、新型コロナウイルス感染症予防対策を取りながら、前回令和元年度の開催実績を踏まえつつ、学校や地域、様々な団体等と連携したイベントを開催し、梅を鑑賞することができるプログラムと合わせ開催（期間：2/19～2/28、観梅会案内チラシのデザインは、総合科学高等学校生徒が作成）。梅の植樹のための寄附募集（R4寄附・募金額：604千円）。							
数値で把握することが可能 な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	梅香サポーターへの参加人数	目標	3	—	—	—	人
				実績	3	—	—	—	
	2	活動指標	梅の植樹（令和4年度をもって事業終了）	目標	10	—	—	本	
				実績	10	—	—		—
	3	成果指標	寄附受付額	目標	500	—	—	千円	
				実績	604	—	—		—
	4	活動指標	観梅会における地域活動団体等の参加	目標	8	—	—	団体	
				実績	8	—	—		—

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		新型コロナウイルス感染症に対する行動変容へ適切に対応するとともに、予防を徹底しながら市民及び様々な団体とのコミュニティを形成し、事業を推進することが求められます。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 3 年度 □ 今後実施( 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		コロナ禍で開催した令和2年度観梅会の取組と実績を踏まえて、観梅会の計画を見直しました。 総合計画第3期実施計画の策定や市制100周年に向けて、御幸公園梅香事業の方向性を確認し、必要に応じた見直しを行いました。なお、当該取組のうち、「梅の植樹」及び「寄附」については、令和4年度をもって事業を終了しました。		
評価項目		評価		
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域活動団体等による観梅会でのプログラムを実施し、小学校の総合の学習や高校の学習の機会と連携をしながら、コミュニティを形成していることから、依然、市民ニーズはあるものと考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症により、イベント参加人数など影響は受けたものの、事業推進会議、写真展及び川柳コンクール、歴史講演会を実施したほか、区民祭で工夫を凝らしたイベントの開催など、成果指標は概ね達成され、加えて寄付受付額については、目標を上回っており、有効性はあがっているものと考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	事業費については、引き続き河川財団の助成金や「うめかおる寄附・募金」を活用するなど、一般財源の縮減を図っていきます。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	新型コロナウイルス感染症に対する新たな生活様式を踏まえた地域コミュニティの形成等、取組手法の見直しを視野に入れ市制100周年に向けて、梅林の保全、地域住民や学校等との連携、歴史・文化の継承に取り組みます。 また、多様な主体とのさらなる協働・連携に向け、市民協働による梅林の管理等サポーターの組織づくりを進め、地域資源を活かした魅力あるまちづくりを進めていきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	05	15	音楽のまち推進事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		松村	62355

事業の概要

事業の概要		ミュージアムシンフォニーホールなど、区民が身近な場所で音楽に親しめる環境をつくり、「音楽のまち・かわさき」を推進します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業		
		平成9年度		—						
地域の課題と現状		幸区には世界でも有数の音響設備を持つミュージアムシンフォニーホールがあり、音楽に対する区民の関心も高く、今後とも身近な場所で気軽に音楽に親しむことができる環境を整備するとともに、演奏発表の機会を音楽活動団体へ提供し、全市をあげて取り組んでいる「音楽のまち・かわさき」を推進していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	3,659	3,437							
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財 一般財源	3,659	3,437						

計画 (Plan)

事業の目的	幸区内の施設において区民が身近な場所で音楽に親しめる環境をつくるためコンサートを開催し、「音楽のまち・かわさき」を推進します。
今年度の事業の取組内容	・区民が身近な場所で良質な音楽を楽しめる「夢こんさあと」を年8回、ミュージアムシンフォニーホールで開催する区民音楽祭「さいわいハナミズキコンサート」を年1回、心のバリアフリーをテーマにした「はび☆こん～誰もが幸せになるコンサート～」を年1回開催します。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	・「夢こんさあと」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、観客席数の制限、事前申込制などの感染症対策を講じた上で開催しました。また、より多くの区民に安心して音楽を楽しんでいただく機会を提供するために、幸区チャンネル(YouTube)にて毎回アーカイブ配信を行いました。 ・「はび☆こん～誰もが幸せになるコンサート～」は、「心のバリアフリー」をテーマにミュージアム1階ガレリアにて11月13日(日)開催。開催時間の短縮、観客席数の制限などの感染症対策を講じた上で開催。演奏者は障害のある音楽家を含む4組。川崎市文化財団主催のバラムーメントの取組を推進する「Colors かわさき展」やオリンピック・パラリンピック推進室、田島支援学校の生徒にチラシのイラストを描いてもらうなど、さまざまな機関と連携しました。アンケートの結果、来場者は「楽しめた」、出演者は「良かった」がともに100%で、多くの来場者の満足と事業目的に対する共感を得ることができました。 ・「さいわいハナミズキコンサート」は、ミュージアムシンフォニーホールで令和5年2月4日(土)に開催。全席指定にするなど、感染症対策を講じた上で開催し、幸区民を中心に約700名の方に、幸区の地域資源であるミュージアムシンフォニーホールで良質な生の音楽を提供することができました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
	1 成果指標	夢こんさあと来場者数	目標	320	—	—	—	人
			実績	338	—	—	—	
	2 成果指標	はび☆こん来場者数	目標	200	—	—	—	人
			実績	180	—	—	—	
	3 成果指標	さいわいハナミズキコンサート来場者数	目標	800	—	—	—	人
			実績	700	—	—	—	
	4		目標					
			実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		幸区は、高齢化率が高く、コンサート来場者の現状においても高齢者が多いため、来場者のニーズに合わせた運営が必要とされています。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施      (直近)平成 30 年度      □ 今後実施(平成      年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		「はび☆こん～誰もが幸せになるコンサート～」は、「さいわい街かどコンサート」を改め、事業目的に「心のバリアフリー」を掲げ、バラムーメントの取組を推進する「colors art fair」と連携して平成30年度から実施。出演者は障害がある個人音楽愛好家や主旨に賛同するプロ・アマの音楽家など。多くの来場者の満足と共感を得ています。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	さいわいハナミズキコンサートは約700名の観覧者が来場し、事業のニーズは高いと考えます。また、「音楽のまち・かわさき」を推進していく上でも重要な取組であると考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度もコンサートの様子を幸区の公式チャンネルでアーカイブ配信するなどより多くの区民に音楽を楽しんでいただける環境を整備しており、成果は上がっていると考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	それぞれ事業目的が異なる3つの音楽事業を、各事業の対象等が重なることなく効率的・効果的に実施し、「音楽のまち・かわさき」の推進を図るとともに、引き続き来場者の満足度を高める工夫を検討していきます。		

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	より多くの区民が身近な場所で気軽に音楽に親しめる環境をつくるため、事業目的がそれぞれ異なる3つの音楽事業を幸区内の様々な施設において開催をしていくことは重要であり、引き続き来場者ニーズを捉えながら満足度を高めるよう運営の見直し・改善を図りながら事業を進めていきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	05	10	さいわいものづくり体験事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		平山	62355

事業の概要									
事業の概要		科学技術関係機関やものづくり関連施設が集積した幸区の特徴を活かし、新川崎地区の研究施設や区内企業等との協働・連携で科学体験教室を開催することにより、青少年がものづくりの基礎となる科学技術を体験的に学ぶとともに、地域との結びつきを深めます。							
		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域資源活用事業		
実施期間		平成25年度		一					
地域課題と現状		幸区の魅力のひとつとして、地域資源である研究開発施設等の存在を多くの区民に周知し、理解及び関心を深める必要があります。また、若い世代の科学技術への関心が求められる中で、青少年向けに興味深いテーマを提供して教室を開催し、継続的に科学やものづくりを体験してもらうことは非常に重要です。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	財源内訳	927		810					
		国庫支出金							
		市債							
		その他特財		33 0					
	一般財源		894 810						

計画 (Plan)	
事業の目的	研究開発施設やものづくり関連施設が集積した幸区の特徴を生かし、これらの地域資源を活用した科学技術体験教室や科学体験イベントを、企業や団体と連携して開催することにより、青少年がものづくりの基礎となる科学技術を体験的に学ぶとともに、地域と研究開発施設等との連携を深めます。
今年度の事業の取組内容	・慶應義塾大学新川崎タウンキャンパス、新川崎・創造のもり地区の研究施設、区内企業及び市民活動団体等と連携し、青少年がものづくりの基礎となる科学技術を体験的に学ぶことができるイベント「科学とあそぶ幸せな一日」(年1回)を開催します。 ・テーマを絞った体験教室「さいわいトライサイエンス」「さいわいテクノ塾」(各年1回、区内企業と連携)を開催します。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		<p>・「科学とあそぶ幸せな一日(日程:9月10日(土)、会場:新川崎・創造のもり)」は、新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小し、事前申込制による開催となりました。参加者へのアンケートでは「とても楽しかった」「楽しかった」が合わせて100%となり、好評でした。また、ホームページ上で「おうちで楽しもう! 科学とあそぶ幸せな一日」を企画し、慶應義塾大学や関係企業、市民活動団体などの協力を得て、40以上のコンテンツ(出展者数:24団体)を掲載し、子どもたちが科学を楽しく学べる環境を創出しました。</p> <p>・さいわいトライサイエンス実験教室(日本IBM株と協働で実施)は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、「科学とあそぶ幸せな一日」において、日本IBM株に出展をしていただくことができました。</p> <p>・さいわいテクノ塾(日程:5月21日(土)、会場:幸区役所)は、東芝未来科学館の協力のもと、LEDでひかるスポットライトの仕組みを学びながら、ランタンを制作する講座を実施しました。また、子ども達が作ったランタンを幸区創50周年イベントで展示するなど地域との結びつきにつなげることができました。</p> <p>・事業全体を通じ、区内企業、市民活動団体、大学とも連携を図り、研究開発施設等が集積した幸区の特徴を活かした事業を展開しています。</p>						
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標 科学とあそぶ幸せな一日参加者数(保護者含む)	目標	300	—	—	—	人
			実績	223(500)	—	—	—	
	2	成果指標 さいわいトライサイエンス実験教室参加者数(応募数)	目標	40	—	—	人	
			実績	0	—	—		—
	3	成果指標 さいわいテクノ塾参加者数(応募数)	目標	40	—	—	人	
実績			57(135)	—	—	—		
4		目標						
		実績						

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	幸区には科学技術関係機関やものづくり関連施設が集積しており、新たな企業等も参入しています。少子高齢化が進む中、子育て世代の区民が幸区に愛着を持ってもらえるよう、その資源を最大限活用して、魅力的な青少年向けの事業を行うことが重要と考えられます。
事業の見直し・改善内容	■ 実施 (直近) R 4 年度 □ 今後実施( 年度から) 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 平成30年度まで実施していた新たな企業等との科学体験事業については、単独開催から「科学とあそぶ幸せな一日」への出展に統合を図り、効率的な手法とともに、出展者・参加者双方の満足度の向上を図りました。令和2年度からは、同時期に開催していた「さいわい子どもエコフェア」も「科学とあそぶ幸せな一日」に事業統合しました。また、令和4年度からは、さいわいトライサイエンス実験教室(日本IBM株と協働で実施)についても、同様の内容を「科学とあそぶ幸せな一日」において実施し、事業統合を図りました。

評価項目			評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	新川崎・創造のもり地区をはじめ、幸区には科学技術研究機関やものづくり関連施設が集積しており、これら地域資源を活用した取組は今後ますます重要となってくると考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	イベントへの参加者希望者は非常に多く、また、大学・企業・市民活動団体等の協力先も増えており、成果は上がっているものと考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	委託団体等と協議を行い、役割分担の見直し等により、事務負担軽減に向けた改善を進めていきます。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do) や評価(Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	子ども向け科学イベントは、企業、市民活動団体、大学、行政での協働で行っている事業であり、企業や大学等にとっても地域への社会貢献として有意義な取組となっています。また、来場者アンケートの結果からも科学イベントへの関心は高く、引き続き需要が見込まれます。新川崎・創造のもりにあるKBICIに、量子コンピューティングシステムが設置されるなど、新川崎・創造のもりを中心に、幸区には科学技術研究施設が集積しており、これら地域資源を活用した事業展開を推進していくことが重要であると考えます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	05	40	花と緑のさいわい事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		芝田	62355

事業の概要

事業の概要		区内の緑化推進と区民の緑化意識の高揚を図るとともに、区民同士の交流を促進するため、花と緑の潤いあるまちづくりを推進します。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域資源活用事業		
		平成9年度		一					
地域の課題と現状		幸区には大きな公園や緑地が限られているため、小規模な公園等で緑化推進を図ることも重要な取組課題の1つです。事業推進に当たっては、区民同士の交流を図るため、地域を巻き込んだ取組が必要です。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	3,894	3,635						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財	33	30					
一般財源	3,861	3,605							

計画 (Plan)	
事業の目的	区内の緑化推進と区民の緑化意識の高揚を図るとともに、区民同士の交流を促進するため、花と緑の潤いあるまちづくりを推進します。
今年度の事業の取組内容	区民ボランティアグループ「さいわい花クラブ実行委員会」を中心に、小中学校や地域の企業との協働による公共花壇の花植えおよび緑化推進につなげるイベント等を行います。近隣の小学校と市民活動団体「さいわい加瀬山の会」と協働で「夢見ヶ崎公園花植え事業」を実施します。また、幸区緑化活動団体支援事業の実施等、区民が行う緑化活動を支援することにより、区民の緑化意識の高揚と花と緑の潤いのある明るいまちづくりを推進します。 「公共花壇花植え事業」「夢見ヶ崎動物公園花植え事業」「幸区庁舎前花いっぱい事業」をそれぞれ年2回ずつ実施、「緑化活動団体支援事業」を年1回実施するほか、植物に興味を持つきっかけとなるような、区民向けの講習会を企画・実施します。

実施結果（Do）										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		・大師堀公共花壇では、春秋年2回の花植えを下平間小学校・塚越中学校、さいわい花クラブと連携し、児童・生徒と一緒に植え付けを実施しました。 ・夢見ヶ崎動物公園花植え事業は、春秋年2回の花植えを近隣の4つの小学校と地域活動団体さいわい加瀬山の会と協働で、植え付けを実施しました。 ・「さいわい花クラブ」の活動周知と人材確保を目的に、11月29日（火）に講習会「クリスマスの寄せ植え講座」を実施しました。定員（30名）を大幅に上回る応募があり、さいわい花クラブへの参加希望者も獲得しました。 ・緑化活動団体支援事業は、昨年度から配布を年1回に変更し、10月に42団体へ花苗等を提供しました。 ・多様な主体との協働により事業を実施するとともに、各種事業を通じて区民の交流促進が図れました。								
数値で把握することが可能な取組		指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	活動指標	さいわい花クラブ活動参加延べ人数	目標	270	—	—	—	人
					実績	270	—	—	—	
		2	活動指標	緑化活動団体支援事業における花苗配布団体数（年間延べ）	目標	40	—	—	—	団体
					実績	42	—	—	—	
		3	成果指標	「さいわい花クラブ実行委員」と協働で実施する講習会への参加者数（応募数）	目標	50	—	—	—	人
					実績	30（74）	—	—	—	
4	活動指標	幸区庁舎前花いっぱい事業年間実施回数（花苗等の物品の予算は区役所管理運営費）	目標	2	—	—	—	回		
			実績	2	—	—	—			

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		環境への関心が高まり、地球温暖化対策の観点からも、緑化活動への取組は引き続き重要と考えます。事業を遂行するにあたり重要な役割を果たす「さいわい花クラブ実行委員会」は、中心となるメンバーの意識やスキルも向上し、定例会議を自主運営し、幸区市民活動コーナ利用者の会に登録するなど市民活動団体として主体性を持って進めています。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 3 年度 □ 今後実施(令和3年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		緑化活動団体支援事業について、業務の効率化と予算の適正化を踏まえ、令和3年度から年2回の配布から年1回への配布に見直しを図りました。	
評価項目			評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	
	評価の理由	環境への関心が高まっている中、区内の緑化推進及び区民の緑化意識高揚を図るには重要な取組と考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	
	評価の理由	さいわい花クラブ実行委員については、自ら運営に取り組み、メンバー間で緑化意識の高揚や交流を促進するなど意欲的に活動を行い、新たな人材の確保にもつながります。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	
	評価の理由	より区民が主体となって活動できるよう、引き続き支援を行っていきます。また、区内の緑化がより多くの区民の手によって効果的に広げられるよう見直しを図りながら事業を推進していきます。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	令和6年度の緑化フェア開催に向け、緑化活動への取組は引き続き重要と考えます。事業目的や方向性は維持するものの、業務の効率化や予算の適正化を踏まえ、緑化活動支援事業については見直しを図りました。今後も社会環境の変化等を踏まえながら、適宜見直しや改善を図り、効率的・効果的に事業を継続することが適切であると考えます。



令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称	
款	項	目	大	中	小		
11	01	03	26	05	60	地域の魅力発信事業	
担 当			所属コード		所属名		担当者
			631650		まちづくり推進部 企画課		名蔵
							連絡先
							62125

事業の概要										
事業の概要		貴重な地域資源である夢見ヶ崎動物公園や鉄道ビュースポット、絵本作家かこさとしさんのゆかりの地といった区の魅力について、その魅力を高めるとともに、区民へ発信することで区への愛着を高めます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業		
		平成23年度		一						
地域の課題と現状		市内唯一の動物園のある「夢見ヶ崎動物公園」があるほか、新たな区の魅力である鉄道ビュースポットやかこさとしさんのゆかりの地などの地域資源を区民や市民団体、企業など様々な主体と協働・連携して賑わいを創出することで、地域への愛着と誇りをさらに高めていくことが求められています。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	3,637	3,227							
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
		一般財源	3,637	3,227						

計画 (Plan)	
事業の目的	区の地域資源について、魅力を高めるための取組を推進するとともに、区民・企業・団体など様々な主体と連携協働することで賑わいを創出します。
今年度の事業の取組内容	①公園周辺で活動する団体や企業、町内会、動物公園サポーターなどが情報交換し、新たなつながりの構築や賑わいの創出に向けた意見交換を行う「ゆめみらい交流会」を開催するとともに、それを踏まえた取組を実施します。 ②新鶴見信号場をはじめ、区内に点在する鉄道スポットの魅力を感じてもらうために、企業・団体に協力いただき鉄道イベントを実施します。 ③かこさとしの絵本を活用し、地域と連携した取組を実施します。 ④幸区制50周年を記念し、幸50祭をはじめとした記念事業を実施します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		①公園周辺で活動する団体や企業、町内会、動物公園サポーターなどが情報交換し、新たなつながりの構築や賑わいの創出に向けた意見交換を行う「ゆめみらい交流会」を5月と3月に開催しました。 ②新鶴見信号場をはじめ、区内に点在する鉄道スポットの魅力を感じてもらうために、企業・団体と連携し、鉄道イベントを10月～11月に実施しました。 ③区民にかこさとしの魅力を伝えるため、3月に地域イベントで絵本読み聞かせコーナーと共に幸区とかこさとしのゆかりを紹介するパネル設置を行い、周知を行いました。 ④幸区制50周年を記念し、幸50祭をはじめとした記念事業を実施しました。							
数値で把握することが可能な取組		指標分類	指 標	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
		1	活動指標 「ゆめみらい交流会」の開催数	目標	2	—	—	—	回
				実績	2	—	—	—	
		2	活動指標 鉄道イベント参加者数	目標	1,000	—	—	—	人
				実績	1,000	—	—	—	
		3		目標					
				実績					
		4		目標					
				実績					

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	幸区の貴重な地域資源である夢見ヶ崎公園について、「夢見ヶ崎動物公園基本計画(H30年3月策定)」も踏まえ、建設緑政局とも連携・調整の上、多様な主体と連携し、新たな魅力と賑わいを創出していく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施( 年度から)
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成28年度まで地域の魅力発信事業で実施していた花植え活動については、地域振興課の公共花壇花植え事業において同様に地域の小学生との花植えを行っていたことから、業務の効率化を進めるため、平成29年度から「花と緑のさいわい事業(地域振興課)」に統合しました。

評価項目				評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか			a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	市内唯一の動物園がある夢見ヶ崎公園の魅力を高めていくことは地域資源を活かしたまちづくりを推進する上で重要であり、また、夢見ヶ崎公園を核とした活動団体・企業等の「つながり」を構築することは、「夢見ヶ崎動物公園基本計画基本方針」における「多様な主体との連携の充実による賑わいの創出」に寄与するものと考えられます。また、コロナ禍の中で改めて身近な地域の魅力の必要性が再認識されたことを踏まえ、地元へ根付いた地域資源の利活用を推進していくことが求められているものと考えます。			
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか			a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	鉄道スポットを活用した魅力発信事業では、1日の展示イベントでありながら約1,000人に参加いただき、事業の周知度が上がっていることが伺えた。また、スタンプラリーも合わせて実施することで、広く区内のスポットに足を運んでもらうことができ、鉄道スポットと合わせて地域の施設や公園の魅力を発信してもらうことができたと考えます。			
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。			a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	「ゆめみらい交流会」では、より活動団体等が主体となるよう、実施方法や役割分担等の検討を行う必要があると考えられます。			

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II 引き続き、夢見ヶ崎公園周辺で活動する団体や企業等と協働・連携の上、区民車座集会(H29.12)での賑わい創出に向けた提案も踏まえ、貴重な地域資源である夢見ヶ崎公園を核とした加瀬山周辺の魅力を発信する取組を、建設緑政局とも連携しながら進めるとともに、活動団体が主体となって賑わいを創出するよう支援していきます。 また、新たな賑わい創出に向けて、鉄道スポットを活用した魅力発信について、今年度の取組で更に多くの企業・団体との連携が生まれたため、引き続き連携を深めていくことで新たな企画を取り入れながら事業を進めていきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	05	20	地域資源を活かしたまちづくり事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			631750		まちづくり推進部 生涯学習支援課(日吉地区担当)		小柳	72303

事業の概要

事業の概要		日吉地区に点在する自然・歴史・文化などの豊富な地域資源を大切にしていくとともに、地域で活動する団体・個人がこれらの地域資源を活用し、次世代に継承していくことにより、地域資源を活かしたまちづくりを推進します。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業	
		平成19年度		一					
地域の課題と現状		地域コミュニティの希薄化が進む中で、マンションの増加などで新規住民は増加しております。日吉地区の歴史や文化などの地域資源を守り、次世代に伝える事業は、区民の地域への愛着を醸成することが必要です。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	348	105						
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
財源内訳	一般財源	348	105						

計画 (Plan)	
事業の目的	日吉地区の歴史や魅力を発信し区民が地域に愛着を持つことにより、よりよいまちづくりの実現をめざします。
今年度の事業の取組内容	コロナ禍でも事業を実施できるように日吉地区の魅力発信につながる、絵本・紙芝居を使ったイベントの開催や歴史講座の実施します。

実施結果（Do）								
上記取組内容に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため規模を縮小したイベント等を、コロナ禍に配慮しながら以下のとおり地域資源を活用した事業を実施しました。 ・てくてく日吉 小倉池はどこ？（参加者数12名） ・てくてく日吉 絵本とアートとむかしばなしと（参加者数15名） ・ネットワーク新聞発行（年1回 5000部） ・歴史講座「加瀬山と日吉地区の歴史」（参加者数14名 目標は20人でしたが、会場の関係で定員15人で実施）							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1 成果指標	歴史講座の参加人数	目標	20	—	—	—	人
			実績	14	—	—	—	
	2 成果指標	てくてく日吉（大人向け）	目標	10	—	—	—	人
			実績	12	—	—	—	
	3 成果指標	てくてく日吉（子ども向け）	目標	20	—	—	—	人
			実績	15	—	—	—	
	4		目標					
			実績					

評価（Check）

事業を取り巻く社会環境の変化		地域の子どもたちが異なった世代とふれあう機会が少なくなってきた現代社会において、新規住民が増えつつある中、参加者同士や多世代の交流がより求められています。											
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近）4年度 ■ 今後実施（令和5年度から）											
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和3年度から、日吉分館が事務局となり、市民と協働して事業を実施している現状に合わせて、プロポーザル方式による委託事業から直営に変更しました。今年度からは、「日吉のタカラモノ活用事業」が一定の成果を上げることが出来たため、「郷土の歴史と文化を活かした日吉まちづくり事業」に一本化して、地域の歴史を学ぶ学習活動等を展開していきます。											
評価項目												評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか											a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	歴史散歩のてくてく日吉は子どもから高齢者まで幅広い参加があり、また歴史講座はリピーターも多く毎回好評であるなど事業のニーズは高いと考えられます。											
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか											a. 上がっている b. 上がっていない	b
	評価の理由	歴史講座、「てくてく日吉」、ネットワーク新聞の発行など日吉地区の様々な世代に向けての魅力発信事業を展開し、参加者アンケートも好評であったことから一定の成果をあったと考えられます。											
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。											a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	来年度からは事業を1本化し、これまで培ってきた地域団体・個人とのネットワークを活用・発展させ、市民館として実施している類似している事業との連携・統合など、より工夫を凝らし効率的・効果的な事業執行を行います。											

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 見直し・改善のうえ継続 Ⅲ. 事業終了		Ⅱ 地域で活動する団体及び個人がネットワークを構築し、地域特有の自然・文化・歴史を守り、世代間の交流を促進する本事業は、参加者も多く、今後も地域のニーズを見定め、コロナ禍後の社会変化に配慮しながら、見直し・改善のうえ継続していきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	05	50	さいわい・はじめようエコ事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			631650		まちづくり推進部 企画課		岩田	62122

事業の概要

事業の概要		地球温暖化、リサイクル等、地球環境に配慮した行動をできることからはじめようと呼びかけるため、小学生を対象とした環境学習イベントの開催、区民と連携した緑のカーテンづくりや企業等と連携したプリンターインクカートリッジ、廃食油の回収など、環境に配慮した取組を行います。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業	
		平成20年度		—					
地域の課題と現状		「かわさきカーボンチャレンジ2050」が策定され、脱炭素の社会の実現に向けて環境団体と連携協力しながら、区民に対して普及啓発していく必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	235	185						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財 一般財源	235	185					

計画 (Plan)	
事業の目的	地球温暖化、リサイクル等、地球環境に配慮した行動をできることからはじめようと呼びかけ、区内でのエコの取組を推進するとともに、脱炭素についても普及啓発していきます。
今年度の事業の取組内容	最新の環境配慮設備が導入されている幸区役所庁舎を題材とした「さいわいエコツアー」を企画し、区内の小学生と保護者を対象とした環境学習を通じてエコの意識醸成を図ります。また、区民と連携した緑のカーテンづくりや企業等と連携したプリンターインクカートリッジ、廃食油の回収など、環境に配慮した取組を行います。

実施結果（Do）									
上記取組内容に 対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	・環境配慮設備が導入されている区役所庁舎のツアーの実施や環境学習を通じた「さいわいエコツアー」を開催しました（参加人数31人）。環境学習については、環境に関する3団体の協力のもと「未来の地球と私たちの暮らし」・「森林の役割と木材の素晴らしさ」・「脱炭素（かわさきカーボンゼロチャレンジ）」を学ぶプログラムを実施しました。 ・ゴーヤーの種の配布による緑のカーテンづくりの普及、インクカートリッジの回収や廃食油の回収などの取り組みを実施しました。 ・エコ活動につながるようなノベルティを制作し、「さいわいエコツアー」や他のイベントにおいて配布することで、環境に関する啓発を行いました								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	成果指標	庁舎を活用したエコツアー 参加児童数	目標	15	—	—	—	人
				実績	15	—	—	—	
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
実績									

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		2016年5月、国の「地球温暖化対策計画」が策定され、2030年の温室効果ガス排出量を2013比で26%削減する目標が掲げられました。また、2020年11月に、2050年までにCO2排出量実質ゼロの達成を目指す「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を本市で策定しました。こうした動向や気候変動の影響などを踏まえ、区としても着実に地球温暖化対策を進める必要があります。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 令和 2 年度      □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R2年度:これまで開催していた「エコフェア」は区内の類似イベントとの統合化を図る一方、環境学習に特化したイベント(さいわいエコツアー)を実施し、効果的な環境啓発を行うよう事業の見直しを行いました。		

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	本市に大きな被害をもたらした令和元年台風第19号など災害という形で気候変動の影響が顕在化しており、施策の必要性及び区民の環境意識は高まっているため、継続した環境啓発の必要性は高いと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	さいわいエコツアーにおいて、区内で活動する市民団体と連携した企画とすることで、区が単独で実施するよりも効果的に事業が実施できることから、一定の成果が上がっていると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	さいわいエコツアーにおいて、対象者に合わせた企画内容の検討や回数、人数など開催手法の検討を行い、より多くの区民に対して効果的な啓発につながるような事業となるよう見直しを図ります。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	2050年の脱炭素社会の実現のために、区民の更なる環境意識の向上が求められていることから、引き続き環境啓発事業を継続するとともに、幸区役所エコツアーについても、時節に応じた内容や、関心が高い環境分野のテーマ・内容を盛り込むなど、参加者のニーズに合わせた内容となるよう見直しを図ることで、より効率的・効果的な事業をなるよう進めていきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	05	55	さいわいガイドマップ発行事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631700		まちづくり推進部 地域振興課			芝田	62355

事業の概要									
事業の概要		幸区の地理や公共施設の一覧など、区民生活に必要な基礎的な情報を提供するため、幸区への転入者を主な配布対象者とする「さいわいガイドマップ」を発行し、利便性の向上や地域理解の促進を図ります。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業	
		平成2年度		—					
地域の課題と現状		新たなマンションの建設や再開発により地図情報は日々変化しており、その更新を確実に行っていく必要があります。また、限られたスペースに、より有用な情報を選択して掲載する必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	792	792						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財	125	183					
	一般財源	667	609						

計画 (Plan)	
事業の目的	転入者をはじめ区民の方々に向けて、区内の地図や公共施設一覧、幸区の見どころなどを紹介し、幸区を知ってもらうとともに、親しみを持ってもらうことを目的とします。
今年度の事業の取組内容	幸区内の地図や公共施設の一覧、バス路線図の情報など区民生活に必要な基礎的な情報を提供するための「さいわいガイドマップ」を最新の情報に更新し、10,000部発行します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度	2	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	・地図情報の更新や掲載内容については、各所管課へ確認してもらうことで効率的かつ正確に最新情報を集めて見直しを図り、10,000部発行しました。 ・ガイドマップを手にする方の多くが転入者であることを踏まえた上で、幸区の魅力がより伝わるガイドマップとなるよう掲載内容についても見直しを図りました。 ・広告の掲載数及び広告料の増加により前年度以上の経費節減を図りました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
	1	成果指標	広告収入	目標	125	—	—	—	千円
				実績	183	—	—	—	
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価（Check）

事業を取り巻く社会環境の変化		幸区は、新たなマンション建設や再開発が行われるなど地図情報が日々変化している点や地域包括ケアシステムの構築や地域コミュニティの活性化を進める中で、ガイドマップは区の情報ツールとしてますます重要となります。			
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近）令和 4 年度 □ 今後実施（平成 年度から）			
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		広告の掲載数および広告料の増加により前年度以上の経費節減を図りました。			

評価項目			評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区の概況を凝縮した広報物であり、地理的情報ツールとしても需要は高いと考えます。		
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	保育園入園希望者などに対して窓口で配布するなど、転入者以外についても配布需要が増えています。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	引き続き広告収入の確保に努め経費節減を図るとともに、事務作業の効率化などの改善を進めていきます。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	需要の高い広報物であることから事業の目的や方向性を維持し、内容を更新しながら今後も区民にとってわかりやすい誌面作りを行っていく事が適切であると考えます。



令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称	
款	項	目	大	中	小		
11	01	03	26	10	25	幸区地域包括ケアシステム推進事業	
担 当			所属コード		所属名		担当者
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課		連絡先
							青木、長谷川
							62883

事業の概要										
事業の概要		区民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域の実現が課題となっていることから、町内会・自治会を中心に地域住民が主体となり、人と地域のつながりが活発で、多世代が互いに見守り支え合う地域づくりを推進します。また、自助・互助の意識の醸成による地域課題解決に向けた取組を推進します。								
		事業開始年度 平成27年度		事業終了年度 —		予算中事業		健康福祉まちづくり事業費		
地域の課題と現状		ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯等の孤立化を防ぐため、町内会・自治会単位で見守り支え合いの活動を行うご近所支え愛事業にて、地域特性に合わせた区民主体の見守り支え合う様々な活動が生まれています。また、ご近所支え愛事業に参加していない町内会・自治会においても、独自の見守り支え合いの活動を進めています。 今後も、多様な主体の参加と協働による地域包括ケアシステム構築を推進していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	2,017	1,286							
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
一般財源		2,017	1,286							

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区民が住み慣れた地域で安心して暮らしていることができる地域の実現を目指し、幸区地域包括ケアシステム推進事業を実施します。
今年度の事業の取組内容	幸区の地域包括ケアシステムの構築に向け、ご近所支え愛事業など町内会・自治会や集合住宅等の単位で自助・互助を深める活動を支援します。また、企業・団体等の多様な主体と連携した取組を推進します。 自助・互助の意識醸成に向けて、地域包括ケア推進に関する講演会(1回)を開催するほか、認知症の方や障害のある方など多様な人が地域で共に暮らすことへの意識向上の取組を推進します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		・ご近所支え愛事業では、合計30の町内会・自治会で部会を設置し、新型コロナウイルス感染症予防対策をしながらコロナ禍での地域での活動状況などの情報を町内会・自治会役員や民生委員等の部会員と共有しました。 ・新小倉地区や鹿島田地区のマンションにおいて、住民主体で継続的に実施できる子育てサロンの運営支援や、子育てサロン新規立ち上げに向けた支援を行うなど、自助・互助の取組の推進・拡大につなげました。 ・子育てフェアの開催を通じて多数の子育て支援機関や区内企業・団体と連携・協力することができたほか、区民祭等の様々な場面で看護大学と連携した取組を行うなど、多様な主体と連携した取組を着実に推進しました。 ・自助・互助の意識醸成に向けた地域包括ケアシステム講演会(1回)を開催しました。また、VR体験やインタビュー、座談会等を通じて、認知症への理解を深める取組を行ったほか、「COLORS SAIWAI」として障害のある方が地域で活動する様子を動画にして広く紹介するなど、多様な人が地域で共に暮らすことへの意識向上の取組を推進しました。								
数値で把握することが可能な取組		指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
		1	活動指標	自助・互助の取組を推進するための活動支援をした地域の数	目標	32	—	—	—	地域
				実績	32	—	—	—		
		2	活動指標	企業・団体等と連携した地域包括ケアシステム関連の事業実施数	目標	2	—	—	—	事業
				実績	2	—	—	—		
		3	成果指標	地域包括ケアシステム関連の事業で連携した企業・団体数	目標	31以上	—	—	—	企業・団体
実績	39			—	—	—				
4			目標							
		実績								

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		幸区の高齢化率は、令和4年10月1日時点で21.79%で全市平均の20.49%を上回り、一人暮らしや高齢者のみ世帯、要介護者や認知症高齢者も増えています。一方で、区内における大規模マンションの新設等によって若い世代の転入も増えており、多様な人々が安心して暮らしていることができる地域の実現に向けた取組が求められています。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) R 4 年度 □ 今後実施( 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R4年度: 昨年度実施したヒアリング結果の分析を踏まえつつ、地域ごとの課題の抽出やアプローチ手法の検討を進めました。併せて、ご近所支え愛部会未設置の地域も含めて、集合住宅単位など様々な視点で自助・互助を深める活動を支援しました。 R3年度: ご近所支え愛事業の仕組みに限らず地域独自の見守り・支え合いの活動を尊重して、部会未実施の町内会・自治会へ個別にヒアリングを行い、地域活動等の状況を共有しました。 R1年度: 部会設置地区の住民へのインタビューから事業実施のコツをまとめたパターンランゲージ「まちバタ」を作成しました。		
評価項目		評価		
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている		a
	評価の理由	24時間365日地域で暮らし続ける区民がお互いに見守り、支え合う意識の醸成を促進するとともに、多様な主体の参加と協働により地域包括ケアシステム構築に向けて取り組む必要性は一層高まっているものと考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない		a
	評価の理由	ご近所支え愛事業のほか、集合住宅等において自助・互助の取組を推進するための活動支援を着実に推進しています。また、多様な主体との連携も強化しており、事業の成果は上がっているものと考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある		b
	評価の理由	引き続き、ご近所支え愛事業の手法に固執することなく、幅広い視点で地域での自助・互助の取組を推進していく必要があると考えます。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 見直し・改善のうえ継続 Ⅲ. 事業終了		Ⅱ 幸区における地域包括ケアシステムの構築に向け、地域住民と十分な対話を行いながら、各地域で自助・互助の意識を高めていきます。また、多様な主体と一層連携・協力しながら地域づくりに向けた取組を推進していきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	10	10	健康づくり推進事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			635150		地域みまもり支援センター 地域支援課		細谷・杉山	62841	

事業の概要

事業の概要		地域の高齢化が進む中で、地域交流や住民同士の支え合いの促進に向けて、地域活動の担い手として期待される世代(50代)に対し、自助・互助の取組や社会参加、健康づくりの普及啓発を推進します。							
		事業開始年度 平成20年度		事業終了年度 —		予算中事業		健康福祉まちづくり事業	
地域の課題と現状		50代は人生100年時代の折り返し地点となり、自身の体調の変化や親の介護等、これからの将来を自分事として捉える必要があります。このような時期を捉え、この世代の興味関心の高い内容を取り入れながら、健康づくり、地域活動のイメージや自主グループの紹介などを行い、地域の自主グループ活動の課題であるボランティアの高齢化の解消に向け、次世代の人材把握に繋がります。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	429	418						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
	その他特財								
	一般財源	429	418						

計画 (Plan)

事業の目的	区民がいつまでも住み慣れた地域でつながりを持ちながらいきいきと暮らせるよう、身近な場所での主体的に健康維持・増進活動及び仲間づくりの活動に取組むことを支援します。
今年度の事業の取組内容	・冊子「50代からのさいわい健康ブック」を作成します。また市ホームページ上でも掲載します。 ・R3までの健康長寿推進事業により発足した健康づくりグループを中心とした自主グループ交流会を年1回開催します。 ・幸区内の健康づくり等を目的に活動しているグループの紹介を主とした地区別シニアかがやき情報誌(令和3年度改訂版)を広く区民に活用してもらえよう、普及啓発を行います。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	50歳からの健康づくり、生きがいづくり、地域交流等を目的に「50歳からのさいわい健康BOOK」を作成し、令和5年2月発行及びホームページ上で掲載をしました。令和4年10月25日には50歳からの健康づくりをテーマにグループ活動をしている方、地域活動に関心のある方を対象に自主グループ交流会を開催し、講話と体操実技、グループ活動の情報交換を実施しました。地区別の「シニアかがやき情報誌」を町内会や地域団体、地区活動において情報提供を行いました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1 成果指標	地域での健康づくりを主とした互助活動の意義を理解する(講義内容が理解できた人の割合)。	目標	80	—	—	—	%
			実績	90	—	—	—	
	2 成果指標	交流会参加者の満足度(満足と回答した人の割合)	目標	90	—	—	—	%
			実績	100	—	—	—	
3 成果指標	地区版シニアかがやき情報の配布数	目標	1,500	—	—	—	枚	
		実績	1,400	—	—	—		
4		目標						
		実績						

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	川崎市健康増進計画「第2期かわさき健康づくり21」では、生涯を通じた主体的な健康づくり、市民の健康づくりを支える環境整備を推進し、若年層の生活習慣病の啓発や行動変容につなげるための場や機会の充実、健康づくりに関するボランティア活動や地域社会活動への参加の促進などが課題になっています。			
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) <input checked="" type="checkbox"/> 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施( 5年度から)			
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成20年からシニア世代を対象に行っていた住民主体の健康づくり活動を考える学習会を実施し、各地域で健康づくり自主グループが発足し、交流会を開催するなどして継続してきました。令和4年度より、事業の対象を50歳以上に拡大し、シニア世代に向けて作成していた「シニアかがやき情報誌」を「50歳からのさいわい健康Book」にリニューアルし、地域等での配布を行いました(成果指標2)。また、これまでの交流会から「健康づくり普及啓発・講演会」に変更し、参加者に地域での健康づくりを主とした互助活動の意義を理解を目指しています(成果指標1)。以上のことより、成果指標を見直しました。			
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている		a
	評価の理由	地域交流や支え合いの促進に向けて、地域活動の担い手として期待される世代に対し、自助・互助の取り組みや社会参加、健康づくりの普及啓発は必要と考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない		a
	評価の理由	自主グループ交流会では、50歳以降を対象に健康づくりグループや関心がある方同士で情報交換し、地域の健康づくり活動の意義、動機づけになっています。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある		b
	評価の理由	健康情報、趣味や学びの生きがいづくり、ボランティア活動、地域交流、介護や認知症など、50歳以降に必要な情報で構成しました。紙媒体だけではなく、ホームページへ掲載し、より広範囲に普及啓発できるようにしました。		

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	
		今年度作成した「50歳からのさいわい健康BOOK」を活用して、50歳以降の健康づくりの普及啓発に取り組みます。自主グループ交流会は健康づくり普及啓発講演会として、50歳以上を対象に実施し、住み慣れた地域で主体的に健康維持・増進活動及び仲間づくりの活動に取組めるよう支援していきます。	

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	10	05	地域の保健福祉情報発信事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課			福本、森崎	62881

事業の概要									
事業の概要		区民の健康的な生活のため、区における地域包括ケアシステムや保健福祉に関する最新情報を区民へ提供する必要があります。地域包括ケアシステムや保健福祉に関する情報・制度の周知として、情報誌「保健福祉情報さいわい」を発行し、区内全戸に年2回ポストイングによる配布及び区内公共施設での配布により情報を発信します。							
		事業開始年度 平成18年度		事業終了年度 —		予算中事業		健康福祉まちづくり事業	
実施期間									
地域の課題と現状		大規模集合住宅の建設により子育て世代を中心とした人口増加が続く一方、高齢化も進んでいる現状の中、子どもから高齢者まで全ての地域住民を対象とした地域包括ケアシステムの構築に向けた取組が必要であり、区民に対して継続的に保健福祉に関する情報を発信します。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2,153	2,153						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
一般財源	2,153	2,153							

計画 (Plan)	
事業の目的	保健福祉に関する情報を的確かつ効果的に発信することで、保健福祉に関する区民の関心及び理解を深めるとともに、各課が開催する事業及び講座等の利用促進並びに制度の周知を行います。
今年度の事業の取組内容	保健福祉に関する情報発信の手段として、情報誌「保健福祉情報さいわい」(A4、8ページ、フルカラー)を発行し、ポストイングによる全戸配布を行います。

実施結果（Do）									
上記取組内容に 対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	「保健福祉情報さいわい」を年2回（10月号・2月号、各83,000部）発行し、全戸配布（ポスティング）等を行いました。コロナ禍において様々な活動が縮小を余儀なくされている中、地域福祉活動団体に地域での活動への想いなどを掲載した結果、特集した団体へスタッフとして関わりたい等の反響が複数寄せられ、地域福祉への関心や担い手の拡大につなげることができました。								
数値で把握することが可能 な取組	指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
	1	活動指 標	「保健福祉情報さいわい」の発行回数	目標	2	—	—	—	回
				実績	2	—	—	—	
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
実績									

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		地域における様々な課題を解決するため、子どもから高齢者まで全ての地域住民を対象とした地域包括ケアシステムの構築が重要視される中、区民に対し継続的に保健・福祉に関わる情報発信が必要です。特にコロナ禍でイベントや講演会等が実施できない中、各戸配布の情報誌による情報発信の重要性は高い状況にあります。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) R 4 年度 □ 今後実施( 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R4年度:掲載内容を吟味し内容を凝縮させた上で、発行回数を年3回から年2回に変更しました。併せて、ホームページやSNS等の多様な媒体の活用も進め、必要かつ適切な量・質の情報発信を確保しながら、経費削減につなげることができました。 R3年度:コミュニティ施策におけるまちの広場につながる地域福祉活動団体を新たに特集することで、地域福祉活動の担い手拡大につながる取組を行いました。 R2年度:イベント情報を中心とした内容から、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対策など、区民が必要とする保健福祉に関する情報や制度などの内容へと紙面構成を見直し、写真やイラスト等を活用してわかりやすく伝わるよう工夫しました。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	転入者の増加やIT機器に不慣れな方にも的確に情報を届ける観点から、区民に対し継続的に保健・福祉に関わる情報発信をする手段としてニーズは高いと考えられます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	特集した記事に対しての区民からの反響がある等、地域福祉活動団体の課題となっている担い手の確保や高齢化といった課題に対しての成果が上がっていると考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	市政だより幸区特別号での特集と連携し、保健福祉情報さいわいとしての発行部数の更なる減少を図り一層の経費削減につなげる等、事務改善の検討の余地はあるものと考えます。		

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	10	35	さいわい動物愛護推進事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			635450		地域みまもり支援センター 衛生課		肥後	62561	

事業の概要									
事業の概要		動物の愛護と適正な飼養管理について普及啓発を行い、理解と関心を深めることで、飼養動物に関するトラブルを抑止することを目的としてリーフレット及びペットの災害対策のための「ペットの防災手帳」を配布するとともに、区民の相談に対応するため種々の啓発用プレートを作成・配布します。また、子ども向け動物愛護啓発小冊子「ワンコからのてがみ」を作成し就学児に配布し、夏休み親子動物愛護教室を開催します。							
		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		健康福祉まちづくり事業	
実施期間		平成17年度		—					
地域の課題と現状		動物に係る苦情相談数は年間300件以上にのぼります。飼い主あて適正飼養について指導を実施するのみではなく、動物を取り囲む幅広い対象に対し、動物の習性等について普及啓発し理解を深め、動物の遺棄を防ぎ、地域住民が動物とともに安心して暮らせるよう、様々な世代に動物愛護思想及び動物の適正飼養の普及啓発を行い、住みよい街幸区を推進していく必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	177	166						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
		一般財源	177	166					

計画 (Plan)									
事業の目的			動物の愛護と適正な飼養管理について普及啓発を行い、区民の理解と関心を深めることで、飼養動物に関するトラブルを抑止し、人と動物の共生を図ります。						
今年度の事業の取組内容			・動物愛護啓発冊子「ワンコからのてがみ」の増刷、配布 ・地域的な問題となりやすい犬の糞尿処理や猫の適正な管理について、飼い主等への啓発用プレートを作成、配布 ・各種行事等で糞取り袋や動物愛護及び適正飼養に関するリーフレットを配布し、啓発活動を実施 ・夢見ヶ崎動物公園との共催で「親子動物愛護教室」を開催 ・「幸区春の総合防災訓練」にてペットの同行避難等に関する普及啓発(パネル、物品展示等)を実施						

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	・動物愛護啓発冊子「ワンコからのてがみ」:1,484冊配布 ・動物愛護及び適正飼養に関するリーフレット:2103枚配布 ・動物愛護普及について、区役所1階ロビーにて動画上映及びパネル展示、リーフレット配架を実施。 ・夢見ヶ崎動物公園との共催の「親子動物愛護教室」を新型コロナウイルス感染症のため中止となったが、動画を作成し区役所ロビーで上映するなど実施形態の変更等を行いながら動物愛護啓発業務を継続。 ・6月、2月の幸区総合防災訓練におけるペットの同行避難に関する普及啓発を実施								
数値で把握することが可能な取組			指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	親子動物愛護教室の実施（参加者）	目標	20	—	—	—	人
				実績	—	—	—	—	
	2	活動指標	動物愛護及び適正飼養に関するリーフレット配布	目標	1200	—	—	枚	
				実績	2103	—	—		—
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		ペット飼養に起因する近隣トラブルや動物虐待事件は継続的に発生しております。また、災害時ペットの防災について関心も高まっており、住みよい街幸区を推進していくために動物愛護の普及啓発は今後も必要であると考えますが、コロナ禍(後)やデジタル化を考慮し、実施方法は工夫の余地があると考えます。		
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(令和 5 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和2〜4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、親子動物愛護教室は中止になったものの、動画を作成し区役所ロビーで上映するなど実施形態の変更等を行いながら動物愛護啓発業務を継続しました。令和5年度以降、動物園の一部建て替え工事を実施するため、現地での普及啓発事業に代えて、動物愛護週間や防災訓練等を通じて、子ども向けの普及啓発事業を実施します。		
評価項目		評価		
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている		a
	評価の理由	ペット飼養に起因する近隣トラブルや動物虐待事件は継続的に発生しております。また、災害時ペットの防災について関心も高まっており、動物愛護普及啓発は今後も必要であると考えます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない		a
	評価の理由	動物愛護及び適正飼養のに関するリーフレットを広く配布することにより、住民からの問い合わせや情報提供が寄せられ、地域での効果的な指導につながった事例が複数ありました。また防災訓練での啓発は動物を飼っていない住民も関心が高く、住みよい街づくりに貢献していると考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある		b
	評価の理由	コロナ禍(後)やデジタル化を考慮し、実施方法は工夫の余地があると考えます。		

改善 (Action)									
今後の事業の方向性		方向性区分		方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性				
		Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 見直し・改善のうえ継続 Ⅲ. 事業終了		Ⅱ	ペット飼養に起因する近隣トラブルや動物虐待事件は継続的に発生しております。また、災害時ペットの防災について関心も高まっており、動物愛護普及啓発は今後も必要であると考えます。しかしながらコロナ禍(後)やデジタル化を考慮し、実施方法は工夫の余地があると考えます。				



令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	15	05	総合的なこども支援ネットワーク事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課		長谷川、福本、森崎	62881

事業の概要									
事業の概要		安心して子育てできる社会を目指し、区内の子ども支援機関及び関係機関の連携強化が求められることから、情報交換、相互協力及び支援策の検討・推進を図るための会議を通して、子育て支援のネットワークを構築します。部会を設置して、子ども子育て講演会や子育てフェア、学齢期児童向け情報誌の発行等を行います。							
		事業開始年度 平成18年度		事業終了年度 —		予算中事業		こども・子育てまちづくり事業	
実施期間									
地域の課題と現状		複数の新規大型マンションの建設に伴い、子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により子育て中の親子が孤立化せず安心して子育てできる環境を引き続き構築する必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2,295	1,625						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
一般財源	2,295	1,625							

計画 (Plan)	
事業の目的	子育て家庭の育児不安を解消し、安心して子どもを育てることができる社会を目指して、地域全体で子育てを支援する環境づくりを進めます。
今年度の事業の取組内容	幸区こども総合支援ネットワーク会議及び3つの部会「こどもの地域包括ケアシステム部会」「みんなで子育てフェア部会」「こども情報ネット部会」を開催するとともに、講演会、フェア、情報誌発行等を実施します。

実施結果（Do）										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		・全体会及びこどもの地域包括ケアシステム部会を、区内子育て団体の参加も呼びかけ、ハイブリッド方式で1回、書面形式で1回開催しました。また、コロナ禍に即した子育てに関する講演会を2回オンライン方式で開催しました。 ・みんなで子育てフェア部会を4回行い、10月～11月にかけてスタンプラリー形式で子育てフェアを開催しました。多くの子育て関係機関と連携しつつ準備・運営を行ったほか、前回（R2年度）を上回る22の区内企業・団体からの協力を得ることができ、子育てフェアの取組を通じて、多様な主体の子育て施策への参画を促進することができました。 ・こども情報ネット部会を3回開催し、「こども情報ネット」を3回発行し区内小中学生等に配布しました。また、子ども達がキッズリポーターとなって民生委員児童委員を取材した記事を掲載する企画を展開しました。								
数値で把握することが可能な取組		指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	活動指標 講演会等開催回数	目標	2	—	—	—	回	
				実績	2	—	—	—		
		2	成果指標 講演会等参加者満足度	目標	80	—	—	—	%	
				実績	100	—	—	—		
		3	活動指標 みんなで子育てフェア 参加者数	目標	800	—	—	—	人	
				実績	1,056	—	—	—		
		4	成果指標 みんなで子育てフェア 参加者満足度	目標	80	—	—	—	%	
				実績	94	—	—	—		

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		子育て世代の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が地域で孤立せずに安心して子育てができる環境を引き続き構築する必要があります。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) R 4 年度 □ 今後実施( 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R4年度: みんなで子育てフェアスタンプラリーにおいて、新たにグルメスポットを導入するなど、より多くの企業・団体の協力を得ながら取組の充実を図ることができました。 R3年度: こども総合支援ネットワーク会議と部会1「子どもの地域包括ケアシステム部会」は構成員が重複する団体が多く、協議内容も類似していることから、構成員の参加の負担の軽減と事業目的達成に向けた効率的な実施の観点から統合しました。 R2年度: みんなで子育てフェアの開催にあたり、密にならずに地域でのつながりを作るイベントとして、15団体・企業からの協賛を得てスタンプラリー方式に変更し、参加者数と満足度の向上につなげました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	子育て世代の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が地域で孤立せずに安心して子育てができる環境を構築する必要があります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	講演会や子育てフェアに対する満足度は高く、参加者から寄せられた声からも、各取組が子育て支援の環境づくりに貢献できていることが窺えることから、事業の成果は上がっているものと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	会議開催のスリム化や事業支援業務委託仕様書の見直しによる事務負担軽減など事務改善の余地はあるものと考えており、引き続き検討を進めていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II 子ども子育て分野の地域包括ケアシステムの構築に向けて、関係機関と意見交換や情報共有を行い、子ども子育て支援機関のネットワーク強化や、企業等も含めた地域全体で子育てを支援する環境づくりを継続して実施していきます。

# 令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	15	10	こども・子育て支援事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			635000		地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)地域ケア推進課		福本、森崎	62881

事業の概要										
事業の概要		子育て交流の場の提供、子育て関連情報の提供、子育て支援関係機関・団体の交流等各種事業を通じ、区民のこども・子育て支援に取り組みます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		こども・子育てまちづくり事業		
		平成18年度		—						
地域の課題と現状		大型マンションの建設等に伴い、子育て世帯の増加が続く中、核家族の増加や地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が孤立化せずに安心して子育てできるように、今後も引き続き、区民や関係団体との良好な連携関係を継続しながら子育て支援を継続していく必要があります。また、地域活動をする方たちが高齢化し、若い世代の担い手が不足していることから、地域活動への興味を深めるための取組が必要となっています。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	2,321	1,867							
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
一般財源		2,321	1,867							

計画（Plan）	
事業の目的	子育て中の親子が孤立することなく、安心して子育てができ、地域全体で子どもや子育てを支援できるよう、こども・子育て支援事業を実施します。
今年度の事業の取組内容	子育て情報誌「おこさまっぶさいわい」を、区民が参加した編集会議での編集作業をふまえ発行します。また、こどもの外遊び事業として、区内公園での外遊びと交流の場を提供します。 「さいわいはっぴーボランティア」(はび☆ボラ)として、中高生の地域でのボランティア活動経験を増やす取組を進めます。 コロナウイルス感染症の状況をふまえながら、日吉出張所内のおやこであそぼうランドにて、子育て団体向けに部屋の貸出を行います。

実施結果（Do）

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	<p>・昨年度に実施した3年に1回の大改訂作業を受け、全体的な調整を施した上で、子育て情報誌「おこさまっぶさいわい」を、広告掲載による収入を確保しつつ6,800部発行しました。</p> <p>・こどもの外遊び事業は、区内の公園等6カ所で49回実施した他、ラゾーナ川崎プラザにてイベントを2回実施するなど、多様な場所での取組展開を推進しました。また、新小倉地区や鹿島田地区に建設された大型マンションへ多くの子育て層が転入する中、公園での外遊びと交流の場の提供を通じて、子育て世代が地域で孤立することの無いよう取組を進めました。講座はコロナ禍での子育てや外遊びに関する内容で3回実施することができました。</p> <p>・はび☆ボラは、幸50祭の運営補助や校庭開放(サッカーを通じた小学生との交流)に関するボランティアなど、多様なボランティア活動の場を提供することができました。</p> <p>・「日吉おやこであそぼうランド(日吉合同庁舎2階)」は、団体登録は行ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により閉鎖継続を余儀なくされ、貸し出しはできませんでした。一方で、コロナを取り巻く社会情勢の変化を踏まえた上で、今後の再開に向けた検討・調整について着実に進めました。</p>							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
	1 成果指標	「おこさまっぶさいわい」の発行部数	目標	6,800	—	—	—	部
			実績	6,800	—	—	—	
	2 活動指標	こどもの外遊び事業の参加者数	目標	1,800	—	—	—	人
			実績	1,706	—	—	—	
	3 成果指標	中高生の地域ボランティア(はび☆ボラ)参加者数	目標	50	—	—	—	人
実績			115	—	—	—		
4		目標						
		実績						

評価（Check）				
事業を取り巻く社会環境の変化		新規大型マンションの建設に伴い、子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により、子育て中の親子が孤立化せずに安心して子育てできる環境を引き続き構築する必要があります。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近） R 4 年度      ■ 今後実施(R5年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R5年度(予定):子育て支援に資する人材(こどもの外遊びの活性化や子育て支援を行う担い手)の育成に一層注力しながら、こどもの外遊び事業を展開していきます。 R4年度:R3年度からの大改訂作業に基づき、内容を一新したR4年度版おこさまっぶを発行しました。 R3年度:R3年度版のおこさまっぶさいわいの発行にあたり、新たに広告収入を導入し予算執行額の圧縮を図りました。また、外遊び事業では、参加者と実施場所の拡大を見据えて、ラゾーナ川崎プラザと連携した取組を新たに展開するなど、効果的な事業実施に向けた工夫を行いました。		
評価項目		評価		
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている		a
	評価の理由	子育て世帯の流入が続く一方で、核家族の増加等家族の在り方の変容や、地域コミュニティの希薄化等により子育て中の親子が孤立化せずに安心して子育てできる環境を構築する必要があります。また、地域活動の担い手が課題となっていることから中高生の地域活動への参加を促進する必要があります。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない		a
	評価の理由	外遊び講座に関しては、参加者アンケートの結果、9割超の方から「良かった、参考になった」との回答を得ており、満足度の高い取組となっています。また、はび☆ボラについて一定の参加者数を確保できており、若者の地域活動への関心向上に貢献できているものと考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある		b
	評価の理由	おこさまっぶさいわいの電子書籍化による利便性の向上や広告料収入の拡大等による事務改善については、今後検討の余地があります。ボランティア実施に関する広報を工夫することで、中高生のボランティア拡大に向けた取組を進める必要があります。		

改善（Action）		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	Ⅰ. 現状のまま継続 Ⅱ. 見直し・改善のうえ継続 Ⅲ. 事業終了	Ⅱ こども・子育て分野の地域包括ケアシステムの構築に向けて、自助・互助の取組の強化を目指し、子育て団体の相互交流の場や関連情報の提供、外遊びなどの地域人材の育成を通じ、区民のこども・子育て支援に継続して取り組みます。一方、「おこさまっぶさいわい」における事務改善の可能性について今後検討します。また、若者の地域活動への参加を拡大するため地域でのボランティアメニューの拡大を進めます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	15	15	保育所等活用事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			635000		地域みまもり支援センター 保育所等・地域連携		小野	62831

事業の概要									
事業の概要		地域の子ども・子育て支援を充実・強化として、父親の育児参加の促進や子育て関連情報の提供を行い区民の子育て支援を推進するとともに、地域包括ケアシステムを見据えた地域の子育て力の向上及び人材育成を推進します。							
		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		こども・子育てまちづくり事業	
実施期間		平成23年度		—					
地域の課題と現状		マンションの増加に伴い、子育て世帯が急増しており、子育ての不安や虐待ケース等があり、地域コミュニティの希薄化が深刻な問題となっています。また、保育所や地域子育て支援センター等を活用した子育て支援や、子育て支援を担う人材育成、連携が必要とされています。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	720	265						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
一般財源	720	265							

計画 (Plan)	
事業の目的	地域における育児力の低下に伴う地域子育て家庭への支援強化及び地域の保育力の向上を図ります。また、保育所や地域子育て支援センター等を活用した子育て支援や、子育て支援を担う人材育成、連携を推進します。
今年度の事業の取組内容	・地域の子育て支援の機能強化のための各種講座の実施及び情報発信のイベントカレンダー「お散歩に行こうね」等を発行し、子育て支援に務め、 公立保育所の支援ルーム(ひまわりルーム等)で施設開放を行います。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		・子育て世帯に対し、子育てイベント情報を提供するため「お散歩に行こうね」を毎月発行をしました。 ・「子育てなんでも聞いてみよう」及び「子育て講座」により、健康・栄養・子育ての相談を実施し、子育て世帯の支援を行いました。 ・古川保育園の子育て支援スペース（ひまわりルーム）を平日、施設開放を毎日開放し、子育て世帯の居場所として活用しました。 ・子育て世代に向けた各種講座については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催人数を制限しながら、対面での講座開催も実施しました。 ・保育園児との世代間交流事業については直接的な交流を実施することはできなかったが、園児の作品をプレゼントする等で、交流を行いました。							
数値で把握することが可能な取組			指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	成果指標 子育て世帯の各種講座の実施（参加者数） （パパッとサタデー講座、各種子育て講座等）	目標	400	—	—	—	人
				実績	744	—	—	—	
		2	活動指標 子育て世帯を対象とした情報発信 （子育てイベントカレンダー発行部数）	目標	6,000	—	—	—	部
				実績	6,000	—	—	—	
		3	成果指標 保育園児との世代間交流の実施（参加者数） （みんなで遊ぼう）	目標	100	—	—	—	人
実績	0			—	—	—			
4		目標							
		実績							

評価（Check）

事業を取り巻く社会環境の変化		子育て世帯が増加し、また、コロナ禍のため、子育てに不安を抱えている区民に対して子育て支援が必要であり、さらに保育所や地域子育て支援センター等で子育て支援を担う職員の人材育成、連携が今後とも必要です。		
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施（直近）平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施（令和5年度から）		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		保育園児との世代間交流の実施については、幸区老人会の意向により、交流会のあり方等を見直すため、成果の指標として数値による把握ができなくなることが予想されるため、指標から削除します。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	子育て世帯は今後も増加しており、子育てに不安を抱えている人は多く、事業のニーズは高いと考えられます。		
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	講座の参加アンケートはほぼ満足との回答を受け、古川保育園の支援スペースの利用は、毎日多数の利用があり、また、子育て家庭の交流の場として効果があると考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、業務の見直し等による経費削減やWEBの活用を含めた事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	LOGOフォームを使った申し込みや、子育てアプリWEB活用により広報が広がる。オンラインを使用することで参加しやすい環境設定等の可能性があります。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	今後も増加する子育て世帯に対する各種支援や、適切な情報共有を行い、子育て支援を充実・強化するとともに、子育て支援を担う人材の育成や連携を進めるために、今後も継続的に実施します。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	15	25	児童虐待防止・こども相談支援事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			635150		地域みまもり支援センター 地域支援課		長・鈴木・稲垣・小田切・沼野	62844 62814

事業の概要

事業の概要		子どもたちが健やかに地域生活を送るための環境づくりが課題であることから、協議会や学習会の開催を通じて、要保護児童・要支援児童等の早期発見や発達に課題のある子どもとその保護者の支援を行う体制づくりを推進します。 また、子ども相談窓口を設置し、子どもに関する各種相談を行うほか、要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議を開催し、講演や事例検討を通じ、各関係機関と連携を図れるようにするとともに、児童虐待防止について区民への啓発を進めます。							
		事業開始年度 平成26年度		事業終了年度 —		予算中事業 子ども・子育てまちづくり事業			
地域の課題と現状		地域の子どもが地域の中で健全に成長していくために、また子育て家庭における虐待を未然に防ぐとともに早期に対応していくため、身近な区役所で相談業務等を実施することが求められています。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R06年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	751	600						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
一般財源	751	600							

計画 (Plan)

事業の目的	子どもやその家庭が抱える問題を早期に発見し対応することで重症化を防ぎ、また的確な支援を継続的に行うことで問題の再発を予防します。また、児童虐待予防や要保護児童の発見に地域で取り組める体制を構築します。
今年度の事業の取組内容	子ども相談窓口リーフレットを増刷し、普及啓発を行います。要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議にて代表者部会を年2回、研修会を年3回開催します(会場開催やオンライン講演会など)。研修会ではグループワーク等も行い、顔の見える関係づくり及び出席者の相談援助技術の向上を図ります。子ども発達支援保護者学習会を年9回開催し、保護者の学びの場を提供します。

実施結果 (Do)

上記取組内容に 対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等	こども相談窓口リーフレットを増刷し保護者や子ども、地域の関係機関等に配布し、相談窓口の周知、啓発を行いました。要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議にて代表者部会を年2回、研修会（講演会やグループワーク等）を年3回開催し、要対協の構成機関が顔の見える関係を構築するとともに知識の向上やスキルアップ、連携の推進を図りました。また、集団への適応に心配のある親子に対し、子ども発達支援保護者学習会を年9回開催し、保護者が適切な養育の方法について学ぶ機会を設けました。						
数値で把握することが可能 な取組	指標分類	指 標	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1 成果指標	子ども発達支援保護者学習会参加数	目標	170	—	—	人
			実績	142	—	—	
	2 成果指標	児童虐待相談・通告受理件数	目標	—	—	—	人
			実績	189	—	—	
	3		目標				
			実績				
	4		目標				
			実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く 社会環境の変化		児童虐待に関する報道が取り上げられる中、幸区においても児童虐待の相談・通告件数は年々増加しており、相談内容も複雑・多様化しています。令和5年度以降も、継続した支援体制の構築と子ども家庭総合支援拠点としてのさらなる体制強化を図ることが必要です。また、児童虐待の要因として、こどもの発達課題が関係している事例も多く、虐待予防の観点からより有効な対策が望まれています。		
事業の見直し・改善内容		□ 実施（直近） R 3 年度      ■ 今後実施(平成 5年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる 場合は記載		子ども発達支援保護者学習会の参加者は乳幼児とその保護者であるため、当日の体調不良等により予約数よりも参加者が減少するため目標値を変更しました。また、各関係機関と連携の強化や児童虐待防止についての区民への啓発を図る指標として、要保護児童対策地域協議会幸区実務者会議研修会の参加者数を評価指標に新設しました。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	・区で対応する児童虐待等の件数は年々増加傾向にあり、また課題も多様化しているため、事業の必要性は益々高まっています。		
	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
有効性	評価の理由	・児童虐待等の相談・通告件数が増加しており、啓発による区内の児童虐待防止に対する意識や取り組みが向上した効果があったと考えます。 ・子どもの発達学習会では、実施後のアンケート調査で94%の方が「参考になった」と回答しており、関心の高いテーマを2つ取り上げて実施したことが参加者の満足度につながっており、事業の有効性があると考えます。		
	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	・児童虐待の問題を早期に発見して適切な支援に繋げることや重症化を予防すること、より良い問題解決のためにに関係機関が連携し地域のネットワークを構築するためには、継続して普及啓発活動が必要と考えます。また、要保護児童対策地域協議会及び子ども発達支援保護者学習会の取り組みについては社会情勢や環境変化に適宜対応しながら改善を図っていきます。		

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	特定妊婦や児童虐待ケースの相談・通告ケースは年々増加しており、相談内容も多様化している中で、本事業の継続実施の必要性は高まっています。今後も社会情勢や区民のニーズの変化を柔軟に捉え、要保護児童対策地域協議会及び子ども発達支援保護者学習会の実施方法や内容を検討し、事業を継続実施することで、妊娠期からの一貫した児童虐待の予防や早期発見・早期対応を促進していくとともに、子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点としての一体的運営の体制整備を行っていきます。また、本事業を有効活用し、地域における児童家庭相談支援機能の充実に取り組みます。



令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	15	20	幸区こども学習サポート事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631750		まちづくり推進部 生涯学習支援課			高柳・松本	541-3910

事業の概要										
事業の概要		NPOとボランティアである区民サポーターが連携して、外国につながる小中学生への学習支援活動と、サポーターの養成を行うことで、区民の主体的な活動を進めます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	こども・子育てまちづくり事業費			
		平成24年度		—						
地域の課題と現状		公立学校に転入する日本語を母語としない生徒には日本語指導等協力者が派遣されますが、期間は9か月と限られており、派遣終了後もサポートが必要である児童が大半です。こうした子どもを地域で支えていく観点から、ボランティアの養成を行うとともに、周囲を取りまく環境の変化に対応した学習支援を継続していく仕組みづくりの調整に取組む必要があります。								
予決算 (単位:千円)	財源内訳	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費	688	666						
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
	一般財源	688	666							

計画 (Plan)	
事業の目的	日本語を母語としない子どもが、学習や日常生活において、日本語を母語とする子どもと同じように言葉や慣習を理解できるようにします。
今年度の事業の取組内容	東小倉小学校で、毎週1回、学習サポート教室を実施します。夏休みには市民活動コーナーにて夏休み宿題教室も実施します。教室の運営状況に合わせて、ボランティア養成講座、もしくは既存ボランティア向けの講座を実施します。

実施結果（Do）										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		ほぼ目標通りに実施しました。登録している子どもの数は新型コロナウイルス感染症が落ち着いた夏休み明けから増加しており、継続して参加する子どもの姿も見られました。また昨年から実施の夏休み宿題教室を幸区役所内外国人市民情報コーナーで行い、5名の参加がありました。								
数値で把握することが可能な取組		指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	成果指標	登録している子どもの数	目標	15	—	—	—	人
					実績	18	—	—	—	
		2	成果指標	学習支援ボランティア講座参加者数	目標	10	—	—	—	人
					実績	10	—	—	—	
		3	成果指標	1回あたりの出席児童数平均	目標	8	—	—	—	人
					実績	8	—	—	—	
		4			目標					
					実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		新型コロナウイルス感染症の影響で一時落ち込んでいた外国人市民の増加も、回復してきています。それに伴い、日常会話はできても日本語での学習を理解するまでには至らない子どもたちもいます。		
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近) <input type="checkbox"/> 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施 ( 5 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		同様の内容を教育委員会で行っているため、昨年度から統合の調整を行ってきました。令和5年度から新たな仕組みで同様の事業を教育委員会が行うため、幸区役所としては事業を終了することとしました。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことで、外国人市民が増加しており、日常会話はできても日本語での学習を理解できるまでには至らない子どもたちがいます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	各学校から学習サポートが必要な子どもの情報があがっており、子ども自身も継続して教室に通っています。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	同様の内容を教育委員会事業で行っており、統合を図ることで効率的な運営ができると考えます。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	III	同様の内容を教育委員会に行っているため、昨年度から事業統合の調整を行いました。令和5年度から新たな仕組みで同様の事業を教育委員会が行うため、幸区役所としては事業を終了することとしました。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	15	30	幸区待機児童対策事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			633250		地域みまもり支援センター児童家庭課		佐々木	62695

事業の概要

事業の概要		多様な保育事業に関する情報提供を行い、保育の選択肢を広げ、利用者に対するきめ細やかな相談・支援を実施して待機児童の解消を図ります。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		こども・子育てまちづくり事業	
		平成28年度		—					
地域の課題と現状		年々増加する未就学児の人口及び保育所等利用申請者数の増加に対応するためには、認可保育所以外の保育サービスなどへ保育の選択肢を広げることやきめ細やかな利用者支援が求められます。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,436	1,422						
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	1,436	1,422						

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区における待機児童対策として、認可外保育施設である川崎認定保育園等を効果的に紹介します。
今年度の事業の取組内容	川崎認定保育園リーフレットの内容を更新するとともに、電子媒体での情報提供を活用するなど、経費を削減しつつ効果的に事業を実施します。また新型コロナウイルス感染症拡大防止により、区内保育所等の見学を自由にできない状況となっているため利用者が自宅等において保育所等の状況を知ることができるよう保育所施設紹介映像を作成し、区HPやYouTubeの「幸区チャンネル」で配信します。その他、申請者の利便性向上を図り、動画による説明会を実施します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	・新年度4月や年度途中の利用申請、相談及びアフターフォローにおいて多様な保育事業の紹介ツールとしてリーフレットや紹介映像を活用し、来庁者にわかりやすい説明を行いました。 ・更新したリーフレットの内容は区のホームページに掲載し、効果的に広く情報提供しました。 ・保育所施設紹介映像は、区HPやYouTubeの「幸区チャンネル」で配信しました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標			R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	単位
	1			目標					
				実績					
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		年々増加していた保育所等利用申請者数が減少傾向となり、今後は地域の保育需要の分析が求められています。一方、内定率の低いエリアやクラス年齢の申請者に対しては認可保育所以外の保育サービスなどの周知が重要であり、区民サービスの向上からも引き続き窓口等で活用できる効果的なツールが必要です。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近)令和 2 年度 □ 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		情報の提供方法をこれまでの冊子型のガイドブックからリーフレット形式に変更し、必要とされる情報を限定することにより利用者に分かりやすくするとともに、経費を削減しました。新たな生活様式への変化に伴い、利用者が自宅等において保育所等の状況を知ることができるよう保育所施設紹介映像を区HPやYouTubeの「幸区チャンネル」で配信しました。	

評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	保育所入所申請者数は減少傾向ですが、まだ約200人の保留者がいることや対象者も毎年異なることから引き続き対策が必要です。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	多様な保育事業の紹介ツールを活用することなどにより保育事業への認識は向上しており、成果は上がっていると考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	区民のニーズを把握しながら、より効果的な情報提供方法・媒体の検討をしています。	

改善（Action）			
今後の事業の 方向性	方向性区分	方向性	実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	待機児童解消に向けては、今後も継続した取組が必要です。また、YouTube配信など新たな手法を取り入れつつ、引き続き利用者に向けた多様な保育事業に関する情報提供等を実施していきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称	
款	項	目	大	中	小		
11	01	03	26	20	30	地域コミュニティ推進事業	
担 当			所属コード		所属名		担当者
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		穴澤
							連絡先
							62351

事業の概要

事業の概要		「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、町内会・自治会等との連携の推進や、町内会・自治会への加入促進を図るなど、地域コミュニティ活性化に向けて取組を推進します。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	地域コミュニティ活性化事業				
		平成24年度	—						
地域の課題と現状		・区内の町内会等への加入率が近年減少傾向にあり、役員の後継者不足や負担軽減などの課題解決が求められています。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,948	1,809						
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	1,948	1,809						

計画 (Plan)

事業の目的		地域コミュニティの活性化に向けて、町内会・自治会の地域活動の支援等を行います。					
今年度の事業の取組内容		・町内会・自治会加入促進に向けて、多様な団体との連携を検討し、課題解決のための取組を実施します。 ・地域活動を支える人材の育成、地域コミュニティの活性化等を目的とした「町内会・自治会活性化講座」を実施します。					

実施結果 (Do)

上記取組内容に 対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	・転入手続を行う区民に幸区独自の加入促進チラシを配布、区民祭での加入促進啓発活動、区町連HP・Instagramでの活動紹介等を行い、加入促進や活動の可視化を行いました。 ・地域活動の活性化を促す町内会・自治会活動応援補助金について、積極的な声掛けや、好事例の紹介、手続に係るきめ細かいフォローを行う等により、活用率の向上を行いました。その結果、市内トップの申請率(84.5%)を達成しました。 ・地域において人と人とのつながりをつくるため、地域への関心や関わりが薄い層に対して地域活動に参加しやすいきっかけを創出することを目的とした「さいわい緑むす日」事業を行いました。 ・性差や年齢差、障害の有無を問わず誰でも交流できるバラスポーツ、ポッチャを通して地域コミュニティの活性化を図るようポッチャ体験をテーマとした町内会・自治会活性化講座を計3回実施し、地域コミュニティの活性化を図りました。								
数値で把握することが可能 な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	町内会・自治会活性化講座 参加者数	目標	100	—	—	—	人
				実績	95	—	—	—	
	2	活動指標	町内会・自治会加入率	目標	66	—	—	—	%
				実績	66	—	—	—	
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		社会意識の変化や高齢者・若者の単身世帯の増加により、町内会・自治会への加入率が減少傾向が続いている。良好な地域社会の維持及び形成に果たす町内会・自治会の役割は依然として非常に大きく、地域コミュニティの安定した運営や活性化に向けて、町内会・自治会の担い手の育成や加入促進を支援する必要があります。					
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)					
		具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載					
評価項目							評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか					a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由					大規模マンション建設等による新たな地域コミュニティづくり必要性、また地域の課題解決、見守りや災害時における自助・互助の関係づくりなど観点からも、本事業の必要性は高いものと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか					a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由					町内会・自治会の加入率は全市で一番高い(R44時点、全市平均:57.7%、幸区:66.4%)ものの長期的に見て減少傾向にあります。町内会・自治会活性化講座については、引き続き町内会・自治会の課題やニーズを捉えながら、新たな担い手の育成や活動支援、未加入世帯への加入促進等、更なる活性化等に向けた取組が必要です。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。					a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由					加入促進チラシ等、広報媒体の活用方法を見直すとともに、町内会・自治会が多様な主体と連携し、活動の活性化に向けた機運醸成を図るなど、町内会・自治会が主体的に取り組みを進めて行けるよう、改善を進めています。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
			Ⅱ	
		I. 現状のまま継続 Ⅱ. 見直し・改善のうえ継続 Ⅲ. 事業終了	Ⅱ	「川崎市町内会・自治会の活動の活性化に関する条例」の趣旨に鑑み、地域社会において重要な役割を担う町内会・自治会への理解促進や役員等の人材育成のための講座の実施、さらには新規大規模マンションへの自治会の設立支援など、今後も社会環境の変化に応じた取組を検討し、地域社会の活性化に向けた取組を推進していきます。また町内会・自治会の課題やニーズを捉えながら、新たな担い手の育成や未加入世帯への加入促進等、更なる活性化等に向けた取組が必要です。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称	
款	項	目	大	中	小		
11	01	03	26	20	10	市民活動等支援事業	
担 当			所属コード		所属名		担当者
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		平山
							連絡先
							62355

事業の概要										
事業の概要		幸区内の市民活動を活性化させることによって、区民が身近な地域課題を考え、解決していくことを支援しています。そのために、幸区市民活動コーナーの管理運営を利用団体や区民と協働で行うこと、市民活動を一般の市民にも知ってもらう発表の場として幸区市民活動交流イベントを開催しています。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化事業				
		平成10年度	—							
地域の課題と現状		現在は、かわさき市民活動センターが川崎市全体の中間支援組織として活動資源の需要と供給を結びつけるとともに、市民活動の支援にかかわる様々な役割を担っています。今後は、区においても市民主導型の中間支援組織が確立し、市民活動団体が自立し、主体的に活動できるよう環境を整備していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	1,943	1,574							
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財	120	81						
	一般財源	1,823	1,493							

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区で活動する市民活動団体の支援を行い、活動を活性化させることによって、区民が身近な地域課題を考え、解決していくことを目的としています。
今年度の事業の取組内容	区の市民活動の拠点となる幸区市民活動コーナーを利用団体・区民と協働で運営します。市民活動コーナーと外国人市民情報ルームを活用し、登録団体が活動のPR等のイベントや展示会を行えるように、運用方法を一部変更します。また、SDCとの連携を支援します。 市民に活動内容を知ってもらい、活動団体同士がつながり、活動を広げるための幸区市民活動交流イベント(年1回)を開催します。

実施結果（Do）											
上記取組内容に 対する達成度			3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等			・区民や利用団体等で構成する利用者の会との協働による幸区市民活動コーナーの運営及び幸区役所展示コーナーの運営により、市民活動団体への活動拠点の提供や広報等を支援しました。 ・市民活動団体による市民活動コーナーを利用した区民向けのイベントが複数回実施され、市民活動の活性化につながりました。 ・3年ぶりの開催となった1月14日（土）の幸区市民活動交流イベント「はび☆フェス さいわい」は、イベント参加団体で実行委員会を組織し、イベント内容を企画、地域教育会議主催の「ニューイヤーフェスタ」と同日開催し、参加者同士の交流促進や新たなつながりも生まれました。								
数値で把握することが可能な取組			指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
			1	成果指標	幸区市民活動コーナーの利用登録団体数	目標	50	—	—	—	団体
						実績	46	—	—	—	
			2	成果指標	幸区市民活動交流イベントの来場者数	目標	350	—	—	—	人
						実績	340	—	—	—	
			3			目標					
						実績					
			4			目標					
						実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		市民および市民団体が主体的に課題解決に向けた取組に関わりを持ち自立を促すとともに、行政には課題解決に向けたコーディネートを行う役割が重要であり、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき事業を推進していくことが求められます。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近)令和 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		公共施設の地域化の考え方を踏まえ、市民活動コーナーについてイベント利用ができるよう運営方法の見直しを図りました。	
評価項目			
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている
	評価の理由	地域課題が多様化・複雑化する中、区内で活動する市民活動団体の支援を行い、活動を活性化させることによって、区民が身近な地域課題を考え、解決していくことは重要であると考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない
	評価の理由	幸区市民活動コーナーの利用登録団体数は目標値を下回ったものの、新規の加入団体があったことや、3年ぶりに幸区市民活動交流イベントを開催することができ、参加者同士の交流促進や新たなつながりも生まれたこと等から、一定の成果があったと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある
	評価の理由	幸区市民活動コーナー及び幸区市民活動交流イベントについては、市民活動団体と協議し団体による主体的な運営を行えるよう、適宜見直しを進めています。	

改善（Action）			
今後の事業の 方向性	方向性区分		Ⅱ 市民活動コーナーの運営方法を利用者の会と協議しながら適宜見直しを図り、市民活動団体の自立を促しました。今後も自立した運営に向け行政側が様々な団体の活動内容等を把握し、コーディネート力を高めていきます。また、市民活動交流イベントにおいても、実施内容の見直し、改善を図りながら更に団体間の交流や地域コミュニティの活性化に向けて事業を進めていきます。
	方向性		
	実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性		
	Ⅰ．現状のまま継続 Ⅱ．見直し・改善のうえ継続 Ⅲ．事業終了		



令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	25	幸区多文化共生推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631750		まちづくり推進部 生涯学習支援課			二宮・松本	541-3910

事業の概要									
事業の概要		地域の外国人市民が年々増えている中、多文化共生に関して生じている地域の課題を具体的に把握し、課題解決に向けた事業を実施します。生活をする上で必要な情報等の提供を行い、異なる文化をもつ市民同士の相互理解を深め、多文化共生の意識を高めます。							
実施期間		事業開始年度 平成24年度		事業終了年度 —		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業	
地域の課題と現状		幸区内の外国人市民数は増加傾向にあり、日本人と、文化の違いを越えて共に生きる地域社会を作る必要があります。そのため、地域の多文化共生意識を醸成する取組が必要です。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	613	520						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
一般財源	613	520							

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区に住む外国人市民及び日本人市民が、お互いの文化の相違を認め合い、同じ地域で共に生きる社会を創ります。
今年度の事業の取組内容	多文化共生に関して生じている地域の課題を具体的に把握し、課題の解決に向けた事業として、多文化防災訓練・外国人市民向けオリエンテーションを実施します。また、区内の多文化共生に関する地域資源の調査、幸区役所「外国人市民情報コーナー」の助言やサポートを行います。多文化交流会については段階的に再開していきます。

実施結果（Do）										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		オリエンテーションは内容を変えて、2回に分けて、幸区役所1階にある外国人市民情報コーナーの紹介及び日本で暮らす外国人市民のための生活情報（健康保険制度、税金等）の提供を実施しました。また防災訓練では3か国語の通訳を用意し、参加者に内容がより伝わりやすくしました。外国の家庭料理体験や世界のお茶を提供するカフェ等、多文化フェスタでは地域の外国人市民が活躍できる場を提供しました。								
数値で把握することが可能な取組		指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
		1	成果指標	多文化交流会（フェスタ）来場者数	目標	450	—	—	—	人
					実績	477	—	—	—	
		2	成果指標	多文化防災訓練	目標	20	—	—	—	人
					実績	16	—	—	—	
		3	成果指標	外国人市民向けオリエンテーション	目標	20	—	—	—	人
					実績	20	—	—	—	
		4			目標					
					実績					

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいた新規入国者も回復してきており、支援が必要な外国人市民が増加することが予測されます。今後、必要な情報が必要な人に届く仕組みが求められます。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 3 年度 ■ 今後実施( 5 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和2年度まで行っていた多文化共生に関する啓発については一定の成果を収めたと考え、啓発講座を縮小しました。多文化交流会は多くのブースを展開し想定以上の来場者があったものの、参加者の分散によりブース単位では参加者が増えなかった点を踏まえ、識字学習活動等の事業と連携し交流会参加団体等の活躍の場所を確保しながら当日の実施内容については見直しを行います。また令和3年度から開始したオリエンテーションは市で実施している同内容の事業に対する入口としての役割を終えたと考え、それらと統合する形で縮小していきたいと考えています。また同じく令和3年度から開始した防災訓練については、市民館で実施している識字学級との連携を強めるために、識字学習活動事業に統合し実施していきます。		
評価項目			評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由		外国人市民は増える傾向にあり、今後も多文化共生の取組みはニーズが高まるものと見込まれます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由		防災訓練やオリエンテーションを実施したことにより、日頃情報が手に入りづらい内容を知ることができたとの声も聞かれ、成果は上がっているものと考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由		同内容の事業を市で実施しているものもあり、関係部署と連携しながら外国人市民をサポートしていく仕組みを考えていきます。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	同内容の事業を市で実施しているものもあり、外国人市民により良い事業を提供していくよう、関係部署と連携・調整していきます。

# 令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	20	50	スポーツ推進事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			631700		まちづくり推進部 地域振興課		蔡	62360

事業の概要										
事業の概要		地域で活動するスポーツ関係団体等の多様な主体と連携して地域の交流を促進し、誰もがスポーツに親しめる地域づくりを進めます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業		
		平成23年度		—						
地域の課題と現状		スポーツを通じて地域の活性化、区民の交流、健康増進を効果的に推進していくためには、多様な主体と連携して誰もがスポーツに参加しやすい環境を整えていく必要があります。気軽にスポーツに親しむことのできるきっかけづくりや、年齢や障害の有無にかかわらずスポーツを楽しむ環境整備の一環として、バラスポーツを体験する機会を拡充していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	737	703							
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
一般財源	737	703								

計画（Plan）	
事業の目的	地域で気軽にスポーツに親しむことのできる機会を提供することにより、区民の健康及び体力の保持増進を図るとともに、スポーツを通じて住民同士の交流が促進されることで、活力のある明るく住みよいまちづくりに資することを目的とします。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種スポーツ大会の表彰支援</li> <li>かわさきスポーツパートナーや地域団体等と連携した多世代交流やバラスポーツ体験会等の開催</li> </ul>

実施結果（Do）

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	<p>・コロナの影響のため、未だ中止となっている大会もありますが、少年野球、少年サッカー等、地域でスポーツ推進に取り組む団体主催の大会に対して区長杯を贈呈し、身近な機会でのスポーツの振興に取り組みました。</p> <p>・子育て世代のスポーツ実施率向上や多世代交流を目的としたイベント「スポマル！さいわい」について、昨年度よりも連携団体を増加し、スポーツに関心の低い層でも楽しめるコンテンツと運動体験を組み合わせて内容を充実させ、約1300人の区民が参加しました。</p> <p>・地域の様々な団体・企業と連携して「第1回幸区ポッチャ大会」を開催し、約200人の区民が、障害の有無や年齢に関わらずスポーツを楽しみ、多世代交流を通じて相互理解を深めました。</p> <p>・地域のスポーツ関係団体と連携して、ビーチバレーで東京オリンピックに出場した石島雄介選手によるバレーボール体験会を開催しました。</p> <p>・区主催のイベント等でバラスポーツ体験会を開催し、ポッチャ、車いすバスケット、シッティングバレー、フライングディスク等様々な種類のバラスポーツを体験する機会を設けたほか、幸スポーツセンターと連携して、学校や地域のイベント・施設等でのポッチャ体験指導を約30回開催しました。区役所・スポーツセンターでのポッチャ用具の貸し出しも含めると、約2500人の区民がポッチャを体験しました。</p>							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1 活動指標	地域スポーツ団体に対する表彰回数	目標	4	—	—	—	回
			実績	3	—	—	—	
	2 活動指標	ポッチャ等のバラスポーツを体験した区民の数	目標	1,500	—	—	回	
			実績	2,500	—	—		—
	3 成果指標	スポマル！さいわい参加者数	目標	1,000	—	—	人	
			実績	1,300	—	—		—
		目標						
		実績						

評価（Check）

事業を取り巻く社会環境の変化		バラムーブメントを地域スポーツ振興のレガシーとしていくために、区民が一体となった取組の推進を図る必要があります。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近） R 4 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		多世代交流を通じた相互理解、バラスポーツ実施率向上及び障害理解促進を目的として、地域の様々な団体との連携により、幸区ポッチャ大会を新規に立ち上げることができました。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを未来に遺していくため、区民と連携して取組を進める必要があります。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	地域の様々な団体と連携することにより、数値目標を達成すると共に、活動の広がりを得ています。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	新たなイベントの実施を通じて、区内のスポーツ関係団体の連携を図り、時機と課題を捉えた取組を進めていく必要があります。障害の有無に関係なく多世代で楽しめるポッチャへのニーズが高いことから、更なる普及に向け、スポーツ関係団体等と連携した取組を進める必要があります。		

改善（Action）			
今後の事業の 方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	「スポマル！さいわい」については、更なる地域団体との連携を通じて内容を充実させ、次年度以降も継続的に実施していきます。 地域でのバラムーブメントの浸透を図るため、区内の様々な団体等と連携してポッチャ大会の開催について拡充を検討し、ポッチャを通じて、障害の有無にかかわらず多世代の交流が広がるような取組を進めていきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	35	市民館コミュニティ推進事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			631750		まちづくり推進部 生涯学習支援課		松本・高柳	541-3910	

事業の概要

事業の概要		様々な区民が参加し交流する機会を提供し、区民同士の交流と地域活動を始めるきっかけづくりを行います。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域コミュニティ活性化事業		
		平成26年度		—					
地域の課題と現状		地域のつながりが希薄になってきているという現状に対処するため、市民が集える市民提案を実施し、区民同士が交流する場を用意して地域の活性化につなげていくことが求められています。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	206	187						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
	その他特財								
	一般財源	206	187						

計画 (Plan)

事業の目的	多様な主体が出会い、つながるとともに、市民自らが地域の課題解決や活動・交流に参加していけるよう支援します。
今年度の事業の取組内容	公募による実行委員会にて効果的な交流の場を検討し、つながりを大切にしたいイベント等を開催します。また地域活動団体の情報の収集及び情報発信を行います。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	2	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った									
取組内容の実績等	市民が集える市民提案事業を募集し、実施しました。旧喫茶室跡地を「IDOBATA SPACE」と命名し、事業実施場所として活用したことで、市民館を利用したことがない方たちの目にも活動が留まり、当初想定していた以上に事業提案者及び事業への参加者が増加しました。(事業提案者34名、実施事業数76回、延べ参加人数1574名)(2月22日現在)										
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位	
	1	成果指標	市民館コミュニティ推進事業参加者数			目標	300	—	—	—	人
						実績	1,989	—	—	—	
	2					目標					
						実績					
	3					目標					
						実績					
	4					目標					
						実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		新型コロナウイルス感染症の影響で、地域のつながりの希薄化に拍車がかかり、より人と人との直接会ってコミュニケーションを取ることの重要性が求められてきています。反面、市民館に足を運ぶことができない方たちからは出前講座等を要望されるなど、今後は区全体にコミュニケーションが広がるよう展開していく必要があります。									
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 3 年度 □ 今後実施( 年度から)									
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和2年度まで行われていたコミュニティカフェ事業では、市民館ロビーで珈琲の提供及びイベントの開催をすることで参加した方同士が交流をする内容でしたが、令和3年度からは大きく方向転換し、市民同士の交流を中心とした事業を開催することとしました。									
評価項目										評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか								a. 薄れていない b. 薄れている	a	
	評価の理由		地域のつながりの希薄化は新型コロナウイルス感染症の影響で拍車がかかっており、提案事業への参加者数も想定以上のスピードで上回っています。								
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか								a. 上がっている b. 上がっていない	a	
	評価の理由		想定していたより早いスピードで参加者数が上回っています。								
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。								a. 可能性はない b. 可能性はある	b	
	評価の理由		市民提案事業に参加をすることで交流が生まれることから、事業に必要な経費を受益者負担とする現在の形を継続することで経費削減が見込めます。								

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	現在、幸市民館を中心とした事業を展開しており、今後発展的に地域で活躍できる場を創設していくことで、地域全体の人とのつながりづくりが活性化するようにしていきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	20	45	区民祭開催経費			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631600		まちづくり推進部 総務課			氏原	62112

事業の概要

事業の概要		地域に密着した事業である幸区民祭の開催を支援し、新旧区民の交流と連帯を深め、地域コミュニティの活性化を進めます。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域コミュニティ活性化事業		
				—					
地域の課題と現状		新川崎・鹿島田駅周辺地区の再開発等により幸区においても人口が増加している中で、新旧区民のコミュニティを形成・発展させていくことが重要な課題となっています。また、2年間新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっているため、運営及び出店・出演や来場者の集客について課題となっています。							
予決算 (単位:千円)	年度  事業費  財源内訳 国庫支出金 市債 その他特財 一般財源	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額		決算額		予算額		決算額	
		203		203					
		203		203					

計画 (Plan)	
事業の目的	「こころのふれあう ふるさとさいわい」を合言葉に区民の笑顔と活気があふれる地元ならではのまつりを目指します。
今年度の事業の取組内容	・出店者へのルール徹底など昨年度の課題を踏まえ、来場者が安全に楽しめるよう取り組みます。 ・来場者が混乱しないようコロナ対策を徹底します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	区民祭実行委員会に補助金を交付して3年ぶりの区民祭を開催し、2日間で10万3千人の来場者があった。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1 成果指標	参加団体数	目標	50	—	—	—		
			実績	97	—	—	—		
	2		目標						
			実績						
	3		目標						
			実績						
	4		目標						
			実績						

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		市民の行動変容に併せ、基本的な感染症対策を徹底したうえで、コロナ禍で希薄化した人と人とのつながりを再構築していく必要がある。			
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 4 年度 □ 今後実施( 年度から)			
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		来場者が密集しないよう、出店者の参加ルールや会場レイアウトを変更し、安全・安心にイベントを開催した。			
評価項目					
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている		a
	評価の理由	地域住民が主体となって開催することにより、地域に対する愛着や住民同士の触れ合いを形成していく必要があるため。			
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない		a
	評価の理由	区民祭開催を契機として、様々な地域イベントが復活し、地域に賑わいと活力が戻りつつある。			
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある		b
	評価の理由	今年度の反省点を踏まえながら、地域の活性化につながる区民祭を企画していく必要がある。			

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	実行委員会と緊密な連携を図り、地域のニーズを踏まえつつ、継続して開催していく。



令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	25	05	地域防災活動推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			630000		危機管理担当			岡	62353

事業の概要

事業の概要		幸区における地域住民、企業、関係団体等と行政が大規模災害に備え、必要な対応策の協議・検討を行うとともに、防災・減災に関する情報収集・共有を図るため、幸区災害対策協議会を運営するなど、地域防災力の強化に向けた取組を推進します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	安全・安心まちづくり事業			
		平成25年度		—						
地域の課題と現状		幸区における地域住民、企業、関係団体等と行政が、平常時から緊密な連携を図りながら、大規模災害の発生に備えた対応策の検討・実施や、防災関連情報の共有化を推進していくことが求められています。								
予決算 （単位：千円）	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	725	518							
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財 一般財源	725	518						

計画（Plan）

事業の目的	幸区における地域住民、企業、関係団体等と行政の連携により、地域防災力の強化を進め、区民の生命と財産を守ります。
今年度の事業の取組内容	幸区災害対策協議会の「全体会」のほか、「医療救護部会」「要援護者支援部会」「帰宅困難者対策部会」「地域防災連携部会」の4つの部会における、分野別の各種課題に関する必要な対応策の協議・検討と、関係機関・団体と連携した訓練等を実施します。

実施結果（Do）

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	幸区災害対策協議会全体会及び各部会については、書面開催等の手法も活用し、全体会を1回、各部会を2回開催しました。訓練に関しては、ロジスティクス研修(11/24)、新川崎・鹿島田駅周辺帰宅困難者対策訓練(12/5)、区本部(福祉班)開設訓練及び福祉施設等情報受伝達訓練(2/3)等を実施しました。なお、区の総合防災訓練については、第1回を幸区役所、第2回を南河原中学校で実施しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1 成果指標	各種訓練等(参加者数)	目標	1,500	—	—	—	人
			実績	1,858	—	—	—	
	2 活動指標	協議会・部会の開催回数	目標	9	—	—	—	回
			実績	9	—	—	—	
	3		目標					
			実績					
	4		目標					
			実績					

評価（Check）

事業を取り巻く社会環境の変化		近年、大規模災害が頻発しており、平成30年6月の「大阪府北部地震」、平成30年7月の「西日本豪雨」、令和元年10月の「令和元年東日本台風」等の発生、また、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、地域住民、企業、関係団体等と行政の連携による地域防災力の強化の必要性が高まっています。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近） R 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和元年度には、「令和元年東日本台風」に係る災害対応を踏まえ、従前の大規模地震想定訓練から、洪水想定訓練として実施をしました。また、令和2年度には、避難所における新型コロナウイルス感染症対策として、「風水害時緊急避難場所運営マニュアル」の見直しを図りました。さらに、令和3年度には、避難情報発令基準や高潮浸水想定区域の見直し、新型コロナウイルス感染症対策による、避難者の受入れ態勢の変更等を踏まえ、各種マニュアルの見直しを図りました。令和4年度には「幸区避難所開設マニュアル」及び「避難所開設アクションカード」を用いた避難所開設訓練を実施しました。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	平成30年6月の「大阪府北部地震」、平成30年7月の「西日本豪雨」、令和元年10月の「令和元年東日本台風」等、近年、大規模災害が頻発しており、事業のニーズは更に高まっていると考えられます。		
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	各部会の訓練等においては、新型コロナウイルス感染症の影響で訓練規模の縮小等もあったが、事業全体を通し地域防災力の強化を進められました。また、各種マニュアル等を用いた避難所開設訓練を実施することで、着実に成果が上がっているものと考えられます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	幸区災害対策協議会委員等とも協議を行いながら、これまでに訓練に参加したことのない区民や防災協力事業所等の参加など、訓練の実施内容の見直し等による改善を進め、広く区民の防災意識の高揚及び災害対応力の向上を図ります。		

改善（Action）

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	大規模災害の発生時における災害対応等、更なる地域防災力の向上が求められていると考えられることから、事業の目的や方向性は維持するものの、適切な見直し、改善を行いながら、引き続き事業を実施していくことが必要と考えられます。

# 令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称	
款	項	目	大	中	小		
11	01	03	26	25	25	幸区災害対策推進事業	
担 当			所属コード		所属名		担当者
			630000		危機管理担当		岡
							連絡先
							62353

## 事業の概要

事業の概要		訓練の運営支援や講座等の開催による自主防災組織・避難所運営会議の活性化、地域住民や企業、関係団体・機関等との連携による実践的な総合防災訓練の実施、区本部・避難所の防災資器材の充実など、区内の防災基盤整備の取組を進めます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	安全・安心まちづくり事業			
		平成25年度		—						
地域の課題と現状		市民主体の避難所運営等の必要性や、区本部の機能強化に向けた、防災資器材の計画的な配備がより強く求められています。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	4,581	4,260							
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
一般財源		4,581	4,260							

## 計画 (Plan)

事業の目的	本市周辺で発生が想定される大規模災害に備え、地域防災力の強化を進め、円滑な災害対応に向けた体制構築をし、区民の生命と財産を守ります。
今年度の事業の取組内容	近年多発している大規模災害等を踏まえ、震災を想定した区内避難所(23か所)での避難所開設訓練、地域住民や企業、関係団体・機関等との連携による実践的な訓練、地域住民との協働による、地区防災計画の策定、各種感染症対策を踏まえた防災資器材等の充実・強化、自主防災組織等の活性化に資する講座等を開催します。

## 実施結果 (Do)

上記取組内容に 対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	幸区内避難所における「避難所運営会議・訓練」の実施、自主防災組織等による避難所開設・運営を円滑に実施するための防災資器材（ラッシングベルト・かご台車等）を配備、防災備蓄倉庫の感染症対策物資（衛生用品等）の追加配置、避難所開設キットの整備等を行いました。また、各避難所運営会議・訓練では、昨年度から継続し、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた各避難所ごとのマニュアルの確認・更新を行い、避難所開設訓練を実施し、地域防災力の強化を進めることができました。								
数値で把握することが可能 な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	避難所開設・運営訓練（開催回数）	目標	23	—	—	—	回
				実績	21	—	—	—	
	2	成果指標	避難所開設・運営訓練（参加者数）	目標	800	—	—	—	人
				実績	850	—	—	—	
	3	成果指標	自主防災組織等活性化講座（参加者数）	目標	300	—	—	—	人
				実績	42	—	—	—	
	4	活動指標	地区防災計画WS等（参加者数）	目標	80	—	—	—	人
実績				52	—	—	—		

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		近年、大規模災害が頻発しており、平成30年6月の「大阪府北部地震」、平成30年7月の「西日本豪雨」、令和元年10月の「令和元年東日本台風」等の発生、また、新型コロナウイルス感染症対策等、地域住民、企業、関係団体等と行政の連携による地域防災力の強化の必要性が高まっています。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近） R 3 年度 □ 今後実施(平成 年度から)		
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和元年川崎市総合防災訓練では、自主防災組織委員等が主体的に実施する「避難所一斉開設訓練」を行いました。また、令和2年度には、「令和元年東日本台風」の発生や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、各避難所における「風水害時の緊急避難橋所運営マニュアル」の改訂やコロナ禍における避難所運営に関する備蓄物資の整備を行いました。 令和3年度には、避難情報発表基準や高潮浸水想定区域の見直し、さらには、継続した新型コロナウイルス感染症対策として、避難者の受入れ態勢の変更等、各種マニュアルの見直しを図りました。令和4年度には、引き続き各種マニュアルの更新を行い、避難所開設訓練を実施しました。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	平成30年6月の「大阪府北部地震」、平成30年7月の「西日本豪雨」令和元年10月の「令和元年東日本台風」等、近年、大規模災害が頻発しており、事業のニーズは更に高まっていると考えられます。		
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響で、各種取り組みへの参加人数は減少したものの、開催方法の工夫等を行い、事業全体を通じ地域防災力の強化を進め、着実に成果が上がっているものと考えられます。中でも、各避難所において、避難所運営会議及び避難所開設訓練を実施したことで、地域防災力の向上が図れたと考えられます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	平成29年から全避難所での訓練実施の経験を通じて、今後は、各自主防災組織が中核となっている避難所運営会議において、主体な訓練の企画・実施が期待できるものと考えられます。		

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	大規模災害の発生により、更なる地域防災力の向上が求められていると考えられることから、事業の目的や方向性は維持するものの、適切な見直し、改善を行いながら、引き続き事業を実施していくことが必要と考えられます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	25	15	交通安全普及啓発事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			630000		危機管理担当			鹿山	62354

事業の概要									
事業の概要		区内での自転車交通事故等の現状を踏まえて、幅広い世代に対して交通安全意識の向上を図るため、交通安全教室などを通じて、交通安全知識の習得などを目的とした啓発活動を行います。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		安全・安心まちづくり事業	
		平成18年度		—					
地域の課題と現状		幸区内の交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、自転車に関する交通事故の発生割合が29%を超え、県内平均を上回る高い割合となっており、県内における自転車事故多発地域に指定されています。 また、近年、自転車事故による多額の賠償例や、高齢者に係る事故の増加等が社会的な問題となっており、幸区においても自転車や高齢者に係る交通事故の発生割合がいずれも高い水準にあります。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1570	975						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
一般財源	1570	975							

計画 (Plan)	
事業の目的	幸区内の自転車関係事故の発生割合は依然と高く、県下でも有数の自転車事故多発地域となっていることから、自転車事故を減らし、安全で住みよい幸区の実現を目指すために、区民一人ひとりの交通安全意識の高揚を図り、交通事故を防止するために啓発活動を実施します。
今年度の事業の取組内容	小学校1年生・3年生を中心に、中高生、保育園児や、世代に応じた交通安全教室を実施するほか、各季(春・夏・秋・年末)の交通安全期間中及び各強化月間において啓発活動等を実施します。

実施結果（Do）										
上記取組内容に対する達成度	2		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等	今年度の小学校、中学校、高校の交通安全教室は例年同様、小学校の交通安全教室以外でも、町内会、子ども文化センター、わくわくプラザ、高齢者向けの交通安全教室にて自転車シミュレーター、交通安全VRを活用し、映像体験での実技指導を実施した。 交通安全教室以外でも、区民祭や50周年事業、市民館ジャック、安全安心フェア、備えるフェスタなどで交通安全ブースとして自転車シミュレーター、交通安全VRを出展したことで、幅広い世代に対して教育、啓発を行った。									
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	各交通安全教室総実施回数	目標	50	—	—	—	回	
				実績	69	—	—	—		
	2			目標						
				実績						
	3			目標						
				実績						
	4			目標						
				実績						

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		区内の自転車関係事故の割合(令和2年度:29.1%、県下ワースト12位)は依然と高く、近年ではスマートフォンやイヤホンを着用した「ながら運転」が問題となっています。また、自転車運転者が被害者のみならず加害者となり高額の賠償を求められるケースが増えており、自転車事故に関する賠償責任保険への加入促進が課題となっています。 さらに、高齢化率の上昇に伴う高齢者関係事故の割合も増加していることから、高齢者の交通事故防止も注力していく必要があります。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 令和 2 年度      □ 今後実施(平成      年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和2年度:より効果的な交通安全教育を推進するため、自転車シミュレーターを活用した交通安全教室(対象:小学校3年生)を実施しました。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	「ながら運転」による自転車関係事故割合や高齢化に比例して高齢者の関係事故が増加しており、事業のニーズは高いと考えられます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	自転車交通事故多発地域の指定一覧表において、人身交通事故死亡者数が減少いたしました。 【人身交通事故死亡者R3:2→R4:1】		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	交通安全教室などの実施手法が確立しており、事業を円滑に実施できていることから、当面は現状のまま継続していきたいと考えています。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	交通事故死亡者数が減少している一方で、自転車交通事故多発地域として指定されており、引き続き自転車交通事故防止のための広報啓発活動を継続していきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	25	10	安全・安心まちづくり普及啓発事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			630000		危機管理担当		鹿山	62354

事業の概要										
事業の概要			区民が安全かつ安心して暮らせるまちづくりを目指すため、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という心がけを住民一人ひとりが持つことが出来るよう、意識の高揚を呼びかける啓発活動を実施します。							
実施期間			事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		安全・安心まちづくり事業	
			平成17年度		一					
地域の課題と現状			幸区内においても、振り込み詐欺等、金銭詐欺や主に高齢者を対象に子どもを騙った携帯電話に関する犯罪等が日常的に起こり得る状況にあり、防犯対策を迅速に講ずることが望まれることから、警察や地域の防犯団体と連携した活動を継続していく必要がありま							
予決算 (単位:千円)	年度		R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	財源内訳	事業費	318	270						
		国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
	一般財源	318	270							

計画 (Plan)	
事業の目的	地域の防犯・防火関係団体や町内会・自治会と協力して啓発活動を行い、防犯・防火意識の醸成を図りながら、犯罪や火災を減少させて、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指します。
今年度の事業の取組内容	特殊詐欺や放火防止等を呼びかける街頭キャンペーン、毎月1日・10日の子ども安全の日に行う防犯パトロール、町内会等への防犯パトロールベストおよび誘導灯の貸出による自主防犯パトロールを促進するとともに、幸警察署生活安全課と連携した特殊詐欺注意喚起庁内放送を実施します。

実施結果（Do）										
上記取組内容に 対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		・ラゾーナ川崎プラザルーファ広場において年末のくらしの安全に関する年末街頭キャンペーンを実施した。 ・安全安心まちづくり週間期間において、地域、警察、消防と協働し、キャンペーンを実施した。 ・毎月1日・10日の子ども安全の日に児童登校時に青色防犯灯を点灯した公用車による防犯パトロールを定期的におこなった。 ・各小学校の下校時にあわせ、不定期に毎月3回程度、青色防犯灯を点灯した公用車による防犯パトロールを実施した。 ・自治会等に対する防犯パトロールベスト等の貸与により自主防犯パトロールを促進した。（4団体、計25着）								
数値で把握することが可能 な取組		指標分類	指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	活動指 標	安全・安心街頭キャンペーン	目標	2	—	—	—	回
					実績	2	—	—	—	
		2			目標					
					実績					
		3			目標					
					実績					
		4			目標					
					実績					

評価（Check）				
事業を取り巻く 社会環境の変化		区内の犯罪発生件数(令和4年度12月末時点の刑法犯認知件数:671件、前年比+50件、増減率8.1%)は依然と多く、近年では特殊詐欺、自転車盗、忍込みなどが問題となっています。また、今年度区内の小学校、中学校、高等学校を標的とした犯罪予告を多数受けたことから、今後犯罪の予防、抑止に注力していく必要があります。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近）4年度 □ 今後実施（ 年度から）		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		令和4年度:各小学校の下校時にあわせ、不定期に毎月3回程度、御幸、南河原、日吉の3地区を青色防犯灯を点灯した公用車による防犯パトロールを実施いたしました。		
評価項目		評価		
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている		a
	評価の理由	区民アンケート、高校生アンケートにより安全安心なまちづくりに対する関心が高かったため		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない		a
	評価の理由	他事業と協働でキャンペーンを行うことで、規模を大きくし、周知できたため。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある		a
	評価の理由	主に地域住民の自治活動が主となるため。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	団体が安全に活動を持続できるようキャンペーンを実施していく。



令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	45	05	区民に身近な区役所づくり推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			633300		区民サービス部 区民課			斎藤	62231

事業の概要									
事業の概要		市民ニーズを的確に把握し、より質の高いサービスを提供するため、幸区役所サービス品質向上推進委員会ワーキンググループの活動や職員の人材育成等を通して、区役所サービスの向上に取り組みます。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		区役所サービス向上事業	
		—		—					
地域の課題と現状		多様化する市民ニーズや社会環境の変化のほか、多面的・多角的に区役所サービスを捉え、組織として、また一職員としての確かつ柔軟に対応していくことが求められています。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	202	163						
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財	151	151						
	一般財源	51	12						

計画 (Plan)	
事業の目的	職員の区役所サービスに対する意識向上や窓口・電話応対等での接遇力を高めるとともに、来庁者にとって安全・安心で快適な庁舎環境の改善等を図ります。
今年度の事業の取組内容	幸区役所サービス品質向上推進委員会ワーキンググループにおける企画・提案や実践を通して、区役所サービスの更なる向上に取り組みます。また、区人材育成推進委員会等とも連携しながら、区役所サービスに係る研修を開催します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に 対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		・幸区役所サービス向上方針に基づき、各所属で定めたサービス向上目標を達成するため、各々取組を実施しました。 ・幸区役所サービス品質向上推進委員会ワーキンググループ（WG）を6回開催し、区役所サービスに関する課題・提案について意見交換や情報共有を行い、待合ベンチを活用した広報、幸あり手帳の情報拡充・整理、庁舎内の物品や掲示物の改善、窓口の椅子や待合ベンチの清掃等を行いました。また、幸区制50周年記念プロジェクト事業の取組と連携し、オリジナル婚姻届のPRや、撮影コーナーの活用促進を図りました。 ・接遇研修など区役所サービスの向上に関する研修を計3回実施しました。							
数値で把握することが可能 な取組		指標分類	指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
		1	活動指標 幸区役所サービス品質向上推進委員会ワーキンググループの会議開催数	目標	6	—	—	—	回
				実績	6	—	—	—	
		2		目標					
				実績					
		3		目標					
				実績					
		4		目標					
実績									

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		行政手続のオンライン化など利便性の高いサービスが進む一方で、高齢者や外国人住民などより幅広い視点からの区役所サービスの提供を継続する必要があります。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 3 年度 □ 今後実施(令和 年度から)		
		具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		
評価項目				評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている		a
	評価の理由	多様化する市民ニーズや社会環境の変化に対応するため、引き続き より質の高いサービスの提供を行う必要があります。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない		a
	評価の理由	WGのメンバーは若手職員で構成され、様々な視点からの提案や活発な意見交換ができています。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある		b
	評価の理由	多様化する市民ニーズに対応するため、関係課等と連携を図りながら取組を進める必要があります。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	区役所サービス品質向上推進委員会やワーキンググループを中心に検討を行い、多様化する市民ニーズや社会環境の変化に対応するため、職員の人材育成等を図りながら、引き続き より質の高い区役所サービスの提供に取り組んでいきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	45	10	幸区情報発信推進事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631650		まちづくり推進部 企画課			大野	62122

事業の概要

事業の概要		区の地域課題解決への取組や区政情報・地域資源等を区民に親しみやすく広報するなど、情報発信の強化と充実を図ることを目的に、区独自の広報紙である「さいわい広報特別号」を発行し、新聞折込のほか、区内公共施設への配架、各種イベントや会議等で区民に配布します。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		区役所サービス向上事業	
		平成20年度		—					
地域の課題と現状		区役所が実施する事業は、地域特性や区民ニーズを的確に捉えた取組であり、それらをより多くの区民に知ってもらう必要があります。写真やイラストを多用し、目を引く、分かりやすい紙面作成を行っています。また、SNSを活用するなど様々な媒体を活用して情報を発信する必要があります。							
予決算 （単位：千円）	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	309	286						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
一般財源	309	286							

計画（Plan）

事業の目的		区の地域課題解決への取組や区政情報・地域資源等を区民に親しみやすく広報するなど、情報発信の強化と充実を図ることを目的としています。
今年度の事業の取組内容		旬のテーマについてさいわい広報特別号を発行し、全戸ポスティングや公共施設、各種イベント、会議等での配布を通じて区民への情報発信を行います。また、地域課題の解決に向けた区民への啓発のための情報発信等を行います。

実施結果（Do）

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	・区制50周年・市制100周年に関連した特別号を予定していたが、類似する趣旨の発行物を総務企画局の市制100年記念事業として幸区と総務企画局が連携して製作したことから、業務委託での幸区広報特別号の作成と配布を見送ることとした。 ・地方創生交付金充当の幸区地域活性化支援事業で実施する、幸区として今年度重要な取組と位置づけている事業としてeスポーツイベントの広報の1つとしてタウンニュース広告掲載を行った。市政日よりとは異なる時期の広報により、効果的な開催周知を行うことで、より多くの方々の来場を促した。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	さいわい広報特別号発行部数	目標	32,200	—	—	—	部
				実績	0	—	—	—	
	2	活動指標	instagram発信数	目標	48	—	—	—	回
				実績	56	—	—	—	
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価（Check）

事業を取り巻く 社会環境の変化		スマートフォン等の普及により情報を得る手段が多様化している中、今後ますます高齢化が進む幸区においては、紙媒体による広報は一定のニーズがある手段と考えられます。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近） R 3 年度 □ 今後実施（平成 年度から）		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R3:より効果的な発信のため、市政日より同様に、全戸ポスティングによる配布に変更しました。（区の新たな課題即応事業費を活用） R2:紙面製作業務と印刷・配布業務を一本の契約で行うことにより、契約事務の簡素化を図りました。また、特集の内容に応じて配布先の見直しを行いました。		
評価項目				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	市民ニーズが複雑化・多様化している中、区民の理解と信頼を得ながら、区民満足度の高いまちづくりを進めていくためには、市政運営等について、より分かりやすく、かつ伝わるように情報発信する必要があります。		
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	令和2年度幸区区民アンケートの結果では、さいわい広報特別号から行政情報を入手している割合が前回より増加したため、一定の成果があると考えます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	同様に全戸ポスティングにより配布する他の広報紙を含めて、効果的・効率的な区の広報について、今後検討する必要があります。		

改善（Action）

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	さいわい広報特別号は、地域特性や区民ニーズを的確に捉えた特集を計画的に発行しています。幸区における各地域課題対応事業において、多様な広報媒体で情報発信しており、内容の重複等も考慮し、発行内容の精査など見直しを図りながら、ターゲットに的確な区政情報等が伝えられるよう、事業を進めていきます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	45	15	さいわい区民アンケート事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631650		まちづくり推進部 企画課			大野	62122

事業の概要										
事業の概要		日常生活や区政に対する幸区民の意識を多面的に調査することにより、区民の生活意識や行政に対する意識を明らかにし、川崎市総合計画実施計画(区計画)への反映など、区政運営や地域課題解決に向けた取組の参考とすることを目的に実施します。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	区役所サービス向上事業					
		平成19年度	—							
地域の課題と現状		区政運営や地域課題解決に向けた取組を行う上で、区民の生活意識や行政に対する意識を定期的に調査し把握する必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	1,353	1,341							
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
		その他特財								
一般財源	1,353	1,341								

計画 (Plan)	
事業の目的	区政に対する区民の意識を多面的に調査することにより、区民の生活意識や行政に対する意識を明らかにし、区政運営及び地域課題解決等の参考とします。
今年度の事業の取組内容	区内在住の18歳以上の個人2,000人(外国人含む)を無作為に抽出して区民アンケート調査を実施します。また、区内在学の高校生(2年生)に対して高校生アンケートを実施します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に 対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	2,000標本のうち、有効回収数は911件、回収率は45.6%となり、効果的な調査を実施することができました。また、とりまとめた報告書をホームページへの公表や区選出議員への配布などによる広報を実施したほか、今後の地域課題解決に向けた検討に活用をしました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標			R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	区民アンケート有効回収率	目標	60	—	—	—	%
				実績	45	—	—	—	
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		人口の増加、子育て世代の流入や高齢化、また地域課題が複雑化、多様化しており、区民の意識を多面的かつ定期的に調査する必要があります。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近) 令和 4 年度 □ 今後実施( 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		・令和4年度:郵送に加えて、インターネットによる回答方法を取り入れました。 ・平成30年度:調査票の回収率を向上するため、アンケートの郵送時にボールペンを同封及び発送用封筒を茶封筒からカラー封筒に変更しました。 ・平成28年度:調査対象年齢を満20歳以上から満18歳以上に引き下げました。 ・平成26年度:調査実施年度を平成26年度から隔年実施としました(平成27年度は区役所業務見直し等に伴い、臨時調査として実施)。		
評価項目				評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている		a
	評価の理由	地域課題が複雑化、多様化する中で、区民ニーズを的確に把握し、区政運営や地域課題解決に向けた取組を行っていくことは重要であるため、事業のニーズは高いと考えられます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない		b
	評価の理由	区民アンケートの有効回収率が前回調査から18.4%減少したため、事業の成果も下がっていると考えられます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある		b
	評価の理由	社会環境の変化等に応じて、調査項目や調査手法について検討していく必要があります。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	区政運営や地域課題解決に向けた取組を行う上で、区民の生活意識や行政に対する意識を定期的に調査し把握する必要があるため、事業は継続して実施していきますが、社会環境の変化等に応じて調査項目や調査手法について見直し・改善のうえ継続することが適切であると考えられます。

令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	03	26	40	05	幸区提案型協働推進事業		
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			631650		まちづくり推進部 企画課		大野	62122

事業の概要

事業の概要		地域の課題を地域自ら解決していくことを目指して、地域の課題の解決に資する公益性の高い事業を実施できる市民活動団体等を公募して、協働型の事業委託を行います。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	地域課題対応その他事業		
		平成20年度		—					
地域の課題と現状		地域課題が複雑化・多様化している中で、区民目線での課題提起や解決に向けた取組提案は、的確な地域課題の把握や解決に向けた効果的な事業実施の観点から、必要性が高く、地域課題解決に向けた取組への区民参加促進の観点からも、重要性が高いです。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2,032	1,826						
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
その他特財									
一般財源	2,032	1,826							

計画 (Plan)

事業の目的	市民活動団体等から、地域課題の解決に向けた事業提案を公募し、提案団体との協働により事業実施をすることで、地域課題の解決を図ります。
今年度の事業の取組内容	区計画等を踏まえながら、区の地域課題全般に関する事業を公募します。応募のあった事業について、学識経験者、行政職員で構成する審査委員会等において選考するとともに、採択された事業について、提案団体と区との協働により事業を実施します。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	令和4年度実施事業として7団体(新規4団体)から応募があり、外部委員を交えた審査会を経て5事業(新規2団体)が採択され、提案団体、事業所管課と調整を図りながら、地域課題解決に資する効果的な事業を推進しました。 ・「ジョブまるキッズ！さいわい本気のお仕事体験」(エリアマネジメント組織「鹿島田デイズ」) ・「幸区オリジナル盆踊りプロジェクト」(NPO 法人幸区盛り上げ隊) ・「「自然・植物マップ」、リーフレット及び案内板の作製による「新川崎ふれあい公園内「体験の森」の周知」(NPO 法人幸まちづくり研究会) ・「ゲームとの向き合い方講座」(株式会社 XENOZ) ・「災害から自分と家族を守る！パート3～気候変動の時代を生きのびる知恵～」(CCさいわい)								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1	活動指標	幸区提案型協働推進事業への応募団体数	目標	5	—	—	—	団体
				実績	7	—	—	—	
	2	成果指標	幸区提案型協働推進事業の実施団体数	目標	5	—	—	団体	
				実績	5	—	—		—
	3			目標					
				実績					
	4			目標					
				実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化		地域課題が複雑化・多様化しているため、課題解決に向けて継続的な取組が求められています。		
事業の見直し・改善内容		■ 実施（直近） R 年度      □ 今後実施（平成 年度から）		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		R4年度：令和5年度募集に向け、経費の支出方法を、委託契約から負担金方式へ変更しました。 R1年度：令和2年度募集に向け、前年度実績を踏まえ、1事業当たりの予算額を原則「75万円以内」から「50万円以内」とし、より多くの提案事業が実施できるよう募集要項を見直しました。 H30年度：平成31年度募集に向け、パラムーブメントの提案の促進を図るため、第2次審査時の審査基準を見直し、パラムーブメントに関する提案については加点対象としました。		
評価項目		評価		
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域課題が複雑化・多様化しているため、課題解決に向けた事業のニーズは高いと考えられます。		
有効性	活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	地域課題の解決に資する5件の実施事業があり、区民の参加と協働による地域課題解決に向けた取組意欲の向上へとつなげることができたと考えられます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。		a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	今後も、区民にとって提案意欲が高まる事業となるよう、地域の課題やニーズを把握するとともに募集要項等の見直しを図りながら事業を展開していく必要があります。		

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	地域課題が複雑化・多様化している中で、地域の力による課題解決を推進していくため、地域の課題やニーズを把握しながら、募集要項等の見直し・改善を図り、提案を促進していく必要があります。



令和4年度 地域課題対応事業評価シート(幸区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	03	26	50	05	区の新たな課題即応事業			
担 当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			631650		まちづくり推進部 企画課			大野	62122

事業の概要

事業の概要		年度途中に発生する新たな課題に適切かつ迅速に対応し、課題解決に向けた取組を推進します。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業	区の新たな課題即応事業		
		平成26年度		—					
地域の課題と現状		区民にとって身近な区役所が、年度途中に新たに生じた地域課題等に対し、区長の権限で適切かつ速やかな対応を行っています。区企画調整会議を開催し、事業の必要性や方法などについて審議を行い執行しています。							
予決算 (単位:千円)	年度	R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	5,000	1,021						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
		一般財源	5,000	1,021					

計画 (Plan)	
事業の目的	年度途中に新たに生じた地域課題等に対し、適切かつ速やかに対応します。
今年度の事業の取組内容	年度途中に発生する新たな地域課題等に対して、区企画調整会議で事業の必要性や方法などについて審議し、対応します。

実施結果（Do）									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	①取り付け管調査用カメラ（352,000円） ②プロジェクター（668,690円）								
数値で把握することが可能な取組			指 標		R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	単位
	1				目標				
					実績				
	2				目標				
					実績				
	3				目標				
					実績				
	4				目標				
					実績				

評価 (Check)				
事業を取り巻く社会環境の変化		新たに発生する課題に適切かつ速やかに対応する必要があります。		
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載				
評価項目				評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか			a. 薄れていない b. 薄れている a
	評価の理由	年度途中に発生する新たな課題に適切かつ速やかに対応する必要があり、事業のニーズは高いと考えられます。		
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか			a. 上がっている b. 上がっていない a
	評価の理由	関係部署と連携・調整を図りながら、迅速かつ適切に対応することができた区民の利便性向上を図ったことから、成果があったと考えられます。		
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。			a. 可能性はない b. 可能性はある b
	評価の理由	即応事業費で対応すべき新たな課題について、適切かつ迅速に対応するため、今後も関係部署と連携して必要経費等を確認して執行していく必要があります。		

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	新たな課題に対して、財政局や関係部署と連携・調整を図りながら区民サービスに支障がないよう即時対応していくため、事業を現状のまま継続することが適切であると考えられます。また、即応事業費を執行した事業について、今後の継続的な取組や関連事業の必要性等を検証し、適正な予算要求に向けて関係課と調整を図っていく必要があります。